



# ディスクロージャー誌 2005

Hokuhoku Financial Group, Inc.

DISCLOSURE

'05

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ<sup>®</sup>

Hokuhoku Financial Group, Inc.



# 地域とあなたのために、 もっと。

## 経営理念

「ほくほくフィナンシャルグループ」は、広域地域金融グループとしてのネットワークと総合的な金融サービス機能を活用して、地域とお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづけます。

### 「地域共栄」

社会的使命を実践し、地域社会とお客さまとともに発展します。

### 「公正堅実」

公正かつ堅実な経営による健全な企業活動を目指し、信頼に応えます。

### 「進取創造」

創造と革新を追求し、活力ある職場から魅力あるサービスを提供します。

## コーポレートマーク



垂直に伸びるゴールドのグラデーションは企業の成長性と収益性を表し、緩やかな弧を描くラインは広域地銀としてのネットワークを表現しています。

また、落ち着きのあるブルーの正方形は、組織の揺るぎない安定性をイメージしており、その正方形の中に垂直のラインとカーブのラインを配置することによって、「ほくほく」の頭文字である「h」を表しています。

## 目次

<b>001</b> ごあいさつ	<b>024</b> トピックス
<b>008</b> 業績ハイライト	<b>028</b> 地域とあなたのために(北陸銀行)
<b>013</b> 経営健全化計画	<b>033</b> 地域貢献活動(北陸銀行)
<b>016</b> 不良債権への対応	<b>034</b> 地域とあなたのために(北海道銀行)
<b>018</b> コーポレート・ガバナンス	<b>039</b> 地域貢献活動(北海道銀行)
<b>019</b> コンプライアンス体制	<b>040</b> ペイオフ対応について
<b>020</b> リスク管理体制	<b>041</b> コーポレートデータセクション
<b>022</b> 内部監査体制	<b>065</b> 財務データ編
<b>023</b> 個人情報保護	

- 本誌は、銀行法第21条および52条の29に基づいて作成したディスクロージャー資料です。
- 本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。



## ごあいさつ

# ほくほくフィナンシャルグループは、広域ネットワークという競争的優位性を最大限に活かし、お客さまの利便性向上に資する質の高い金融サービスを提供してまいります



取締役社長  
**高木 繁雄**  
(北陸銀行 頭取)

取締役副社長  
**堰八 義博**  
(北海道銀行 頭取)

皆さまには平素よりほくほくフィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。ここにほくほくフィナンシャルグループのディスクロージャー誌をお届けいたします。

私どもは、平成16年9月1日の経営統合により、北陸三県146カ店、北海道152カ店、東京・名古屋・大阪の三大都市圏17カ店を持つ広域地域金融グループを形成し、お客さまの利便性向上に資する質の高い金融サービスを提供できる体制を整備いたしました。また、当グループは、北陸銀行と北海道銀行を中核に、リース、クレジットカード、ベンチャーキャピタル、ソフトウェア開発、サービサー業務等、あらゆる金融ニーズに対応できる総合金融サービス機能を有しており、グループ企業の総力を結集し、統合によるシナジー効果を具現化していくなかで企業価値の向上に努めております。

昨今の地方経済は、企業の大都市圏進出に伴う広域化や中国を中心とした東・東南アジアへの進出に伴うグローバル化により、「1県」の枠に収まらないボーダレス経済・社会へと変貌を遂げております。当グループは、北陸銀行と北海道銀行の営業・顧客基盤を拡大・補完することにより、広域ネットワークという競争的優位性を最大限に活かし、お客さまのご要望・ご期待に幅広くお応えしてまいりる所存であります。具体的には、顧客第一主義の精神で地域のお客さまとのより密接なリレーションシップを築きあげるとともに、広域情報ネットワークを活用したビジネスマッチングや提案型・問題解決型金融サービスの提供を通じた中小企業等の支援や海外進出支援を積極的に行い、地域経済の発展に寄与し、お客さまの暮らしを強力にバックアップしてまいりる所存であります。

今後とも、皆さまのご期待にお応えできますよう、役職員一同努力してまいりる所存でございますので、倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成17年7月



# もっと、お客さまの身近に。

## 北陸・北海道・三大都市圏を結ぶ 広域金融ネットワークが誕生しました

### 経営統合の経緯

北陸銀行は明治10年の創業以来、北陸三県に幅広く店舗網を展開してきたほか、北前船による交易を背景に、北海道でも主要都市に拠点を置いて地域ニーズに応えてきました。一方、北海道銀行は昭和26年に設立され、道内一円に店舗を展開して、中小企業・個人を中心とした堅固な営業基盤を築いてきました。

両行は、平成14年以降、共通する営業地域である北海道を中心に業務提携を行い、ATMの相互無料開放など顧客利便性の向上に向けた取り組みを進めてきました。また、ますます多様化・高度化する顧客ニーズに対応し、より安定的な経営基盤を構築するためには、両行共通の事業戦略に基づく経営の効率化と営業力の強化を図ることが必要であると判断し、経営統合を行うことを決定しました。

平成15年9月に北陸銀行グループが持株会社方式による経営体制に移行し、平成16年9月には北海道銀行が合流し、「ほくほくフィナンシャルグループ」が生まれました。

平成14年5月	北陸銀行と北海道銀行が包括業務提携
平成15年5月	北陸銀行と北海道銀行が経営統合に合意
平成15年9月	<b>株式会社ほくぎんフィナンシャルグループ設立</b> ～北陸銀行グループが持株会社制に移行～

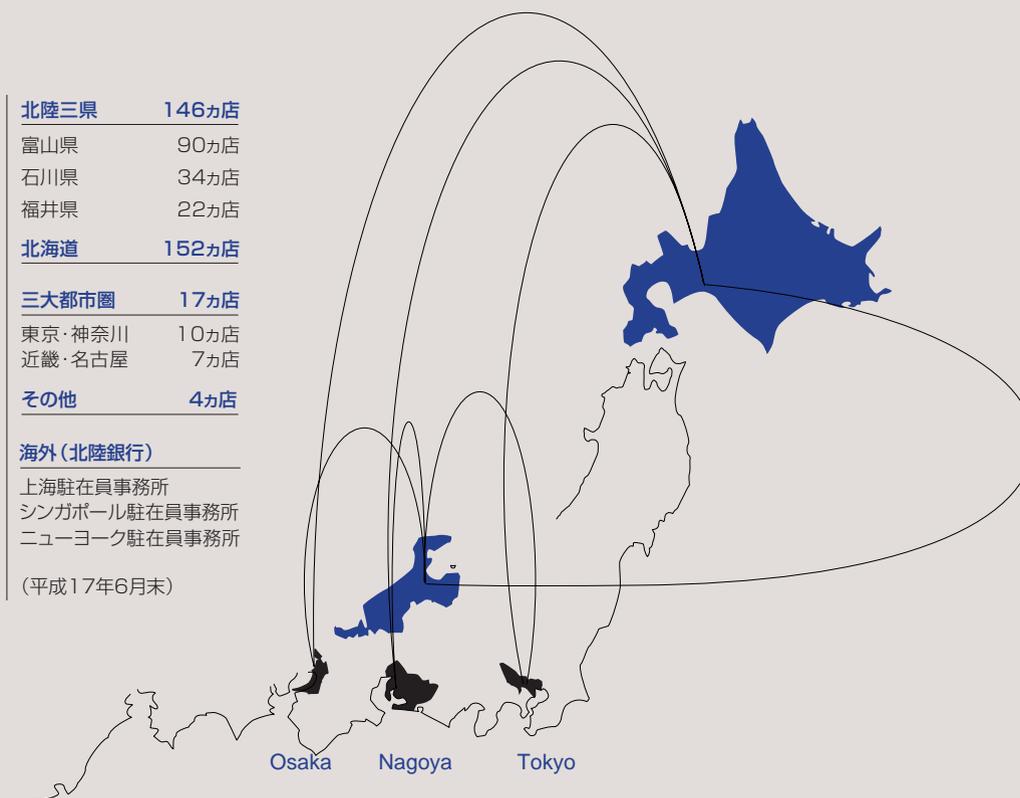


株式交換方式により経営統合

持株会社名を  
株式会社ほくほくフィナンシャルグループに変更

平成16年9月 **ほくほくフィナンシャルグループ誕生**

わたしたちほくほくフィナンシャルグループは、地域を超えた金融グループです。  
グループの広域ネットワーク



#### 経営基盤の安定化にむけて

経営環境の異なった地域にまたがる営業基盤を包含することにより、より安定性のある資産ポートフォリオを構築し、市場から高い信頼を受け、お客さまから支持される地域金融グループを目指します。

#### 営業力の強化にむけて

北海道銀行の北海道内におけるきめ細かい金融サービスと、北陸銀行の北陸地方のほか三大都市圏を含めた本州における幅広いネットワークを結合させることにより、特に北海道内における営業力を向上させていきます。

#### 経営の効率化にむけて

両行のお客さまとの良好なお取引関係を維持・発展させていくことに重点をおきながら、北海道地区で重複するインフラを統合・再編するなどにより、経営資源をより有効に活用し、効率的で収益性の高い営業体制を構築してまいります。

今回の経営統合により、北陸146カ店、北海道152カ店、三大都市圏（東京・名古屋・大阪）17カ店を持つ広域ネットワークが完成しました。ほくほくフィナンシャルグループでは、今後も、それぞれの地域により密着した金融サービスを提供していくと同時に、統合メリットを早期に最大化するため、経営の効率化と経営基盤の安定化を進めてまいります。



## もっと、クオリティを 高めて。

**ほくほくフィナンシャルグループは  
北陸銀行と北海道銀行の  
2ブランドを核として質の高い  
総合金融サービスを提供します**

ほくほくフィナンシャルグループは、現在、連結子会社14社、関連会社2社を傘下に有しています。中核となる北陸銀行および北海道銀行は、地元のお客さまにきめ細かなサービスをご提供するとともに、高度化するニーズに最先端の金融テクノロジーで応えていきます。また、さまざまな設備投資需要に応える北銀リース、クレジットカードを取り扱う北陸カードおよび道銀カード、信用保証を通じてお客さまをバックアップする北陸保証サービスなどのグループ企業が、相互のシナジー効果を最大限に発揮しながら、総合的な金融サービスを提供します。



グループ企業相互のシナジー効果を発揮して総合金融サービスを提供します。



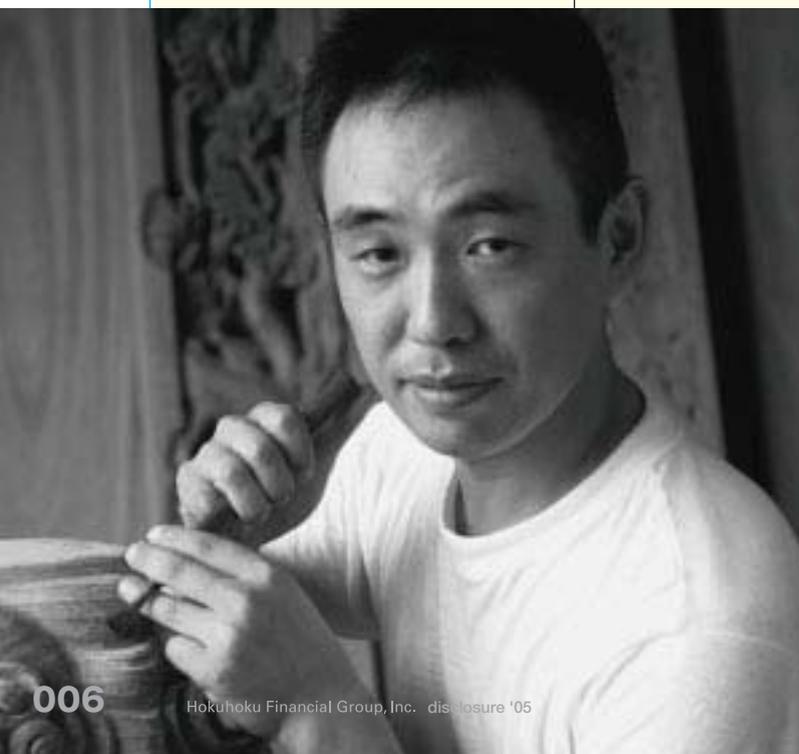
- 北銀ビジネスサービス(株)・道銀ビジネスサービス(株)  
(文書管理・事務集中処理業務)
- 北銀オフィス・サービス(株)(人材派遣業務)
- 北銀不動産サービス(株)(不動産の賃貸業務)
- 北銀資産管理(株)(担保不動産の競落業務)
- (株)北銀コーポレート(企業再生支援業務)
- Hokuriku International Cayman Limited(金融業務)



## もっと、地域に根ざして。

### 私たちがめざすのは地域経済の発展に貢献し、 人々の豊かな暮らしを支える 「地域のメインバンク」です

ほくほくフィナンシャルグループは、「地域の発展の中にこそ当社グループ発展の源がある」という基本方針に基づいて、地域との親密なリレーションシップを強化し、地域経済に対する円滑な信用供与に努めています。当社グループの北陸三県および北海道における預金・貸出シェアはいずれもトップクラスを維持しています。また当社グループはリテールバンキングにおける長い歴史とノウハウを活かし、地域のお客さまのさまざまなニーズに質の高い総合金融サービスを提供することで、地域の発展と活性化に寄与していきます。



## ほくほくフィナンシャルグループは、地域に根ざした金融グループです。

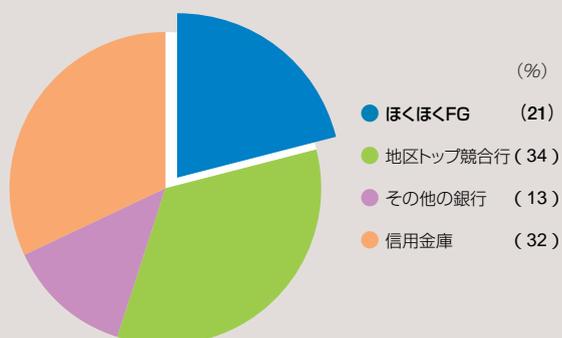
[ほくほくフィナンシャルグループの地域における預貸金シェア]

(北陸銀行、北海道銀行合算)

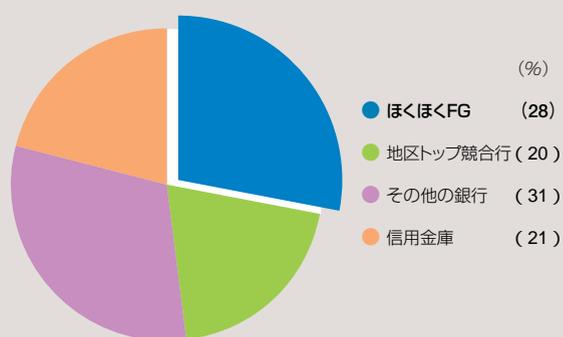
■ 北陸三県内預金シェア (銀行+信用金庫)



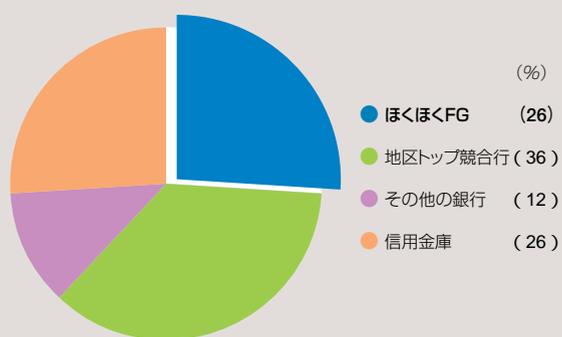
■ 北海道内預金シェア (銀行+信用金庫)



■ 北陸三県内貸出金シェア (銀行+信用金庫)



■ 北海道内貸出金シェア (銀行+信用金庫)



平成16年9月末現在  
「地区トップ競合行」「その他の銀行」のシェアは推定値

# 業績ハイライト

## 営業の概況(ほくほくフィナンシャルグループ)

当社における平成16年度の業績につきましては、子会社等からの配当金およびグループ経営運営費を受領し、営業収益は78億円、経常利益は69億円、当期純利益は69億円となりました。

また、当社における連結ベースでの平成16年度の業績につきましては、連結経常収益は2,032億円、連結経常利益は272億円、連結当期純利益は112億円となりました。連結自己資本比率につきましては8.33%となりました。

なお、当期より北海道銀行を連結しており、北海道銀行の損益は、9月1日以降の7ヵ月分を連結しております。

### ■ ほくほくフィナンシャルグループ(連結) 経営指標

(単位:百万円)

	平成15年度	平成16年度
連結経常収益	179,445	203,200
連結経常利益	7,074	27,226
連結当期純利益	5,031	11,248
連結純資産額	193,692	380,750
連結総資産額	5,675,209	9,398,673
1株当たり純資産額	119.86円	159.75円
1株当たり当期純利益	3.94円	6.86円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	3.55円	5.67円
連結自己資本比率(第二基準)	8.20%	8.33%
連結自己資本利益率	3.53%	4.88%
連結株価収益率	43.15倍	47.37倍

## 営業の概況(北陸銀行、北海道銀行)

### ■ 預貸金

預金につきましては、お取引先の資産運用ニーズの多様化にお応えするため投資信託・年金保険・公共債等の預かり資産の販売を推進したことによる減少要因もありましたが、「ジャンボ宝くじ付き定期預金」が好評を博したこともあり、2行合算で前期末比341億円増加し、8兆3,260億円となりました。

貸出金につきましては、消費者ローンは順調に増加しましたが、一般事業法人の資金需要が弱含みで推移しましたことから、2行と分割子会社(当期北陸銀行が企業再生支援強化のために設立した(株)北銀コーポレート)合算で前期末比1,661億円減少し、6兆7,212億円となりました。

### ■ 配当政策

当社は、銀行持株会社の公共性を鑑み、経営の健全性の確保のため、内部留保の蓄積に十分意を用いつつ、業績等も勘案した上で安定配当を行う方針でございます。

平成16年度の期末配当につきましては、普通株式は昨年より50銭引き上げて1株当り1円50銭、第1回第1種優先株式は1株当り3円85銭、第1回第4種優先株式は1株当り3円31銭、第1回第5種優先株式は1株当り7円50銭とさせていただきます。

### ■ 損益状況

銀行の本来業務の収益力を表すコア業務純益は、北陸銀行では、消費者ローンの増強、投信・年金保険などの個人預かり資産の増強による収益力強化や経費削減施策による増益要因があった一方、事業性貸出の需資低迷から資金利益が減少し、前期比30億円減少し519億円となりました。北海道銀行では新種業務への積極的な取り組みによる手数料収入の増加、経営合理化の一層の推進等により前期比10億円増加し338億円となりました。

不良債権処理額につきましては、企業業績の回復基調を受け、大型倒産や不良債権の新規発生が減少したこと、さらには、お取引先の経営改善が進み、債務者区分が上昇するなどにより、貸倒引当金の取り崩しも発生いたしましたことから、北陸銀行では前期比248億円減少し427億円、北海道銀行では前期比70億円減少し168億円となりました。

一方、法人税等調整額は、北陸銀行で104億円、北海道銀行で60億円を計上し、繰延税金資産の圧縮に努めました。

この結果、北陸銀行の経常利益は前期比101億円増加し167億円、当期純利益は前期比8億円減少し40億円、北海道銀行の経常利益は前期比65億円増加し173億円、当期純利益は前期比2億円増加し111億円となりました。

## 北陸銀行・北海道銀行(2行合算)経営指標

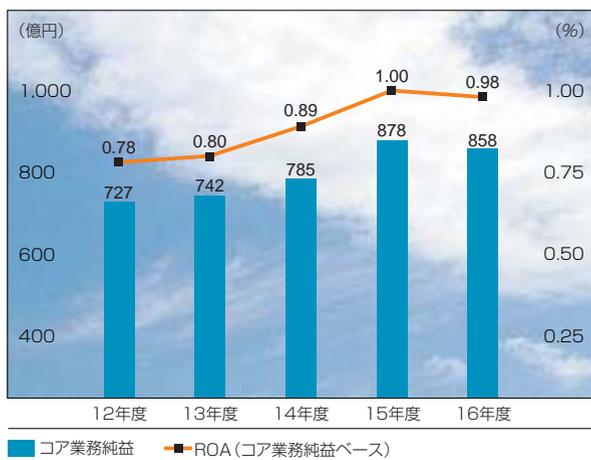
(単位:億円)

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
コア業務粗利益	1,730	1,705	1,705	1,765	1,750
コア業務純益	727	742	785	878	858
経常利益	173	△1,434	△467	173	340
当期純利益	118	△1,311	△523	157	152

※コア業務粗利益=業務粗利益-国債等債券関係損益等

※コア業務純益=コア業務粗利益-経費

### ■コア業務純益の推移(2行合算)



※ROA(コア業務純益ベース) =  $\frac{\text{コア業務純益}}{\text{総資産平残}-\text{支払保証見返平残}}$

### ■経費の推移(2行合算)

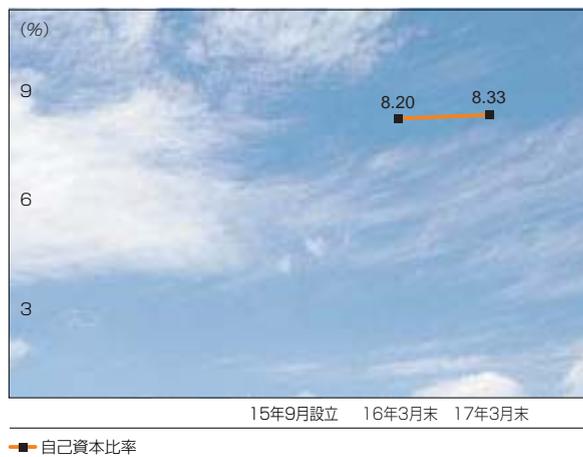


※OHR(コア業務粗利益ベース) =  $\frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}}$

### ■不良債権の状況(2行合算+分割子会社)



### ■自己資本比率の推移(FG連結)



### ■経営合理化の進捗状況(4社合算ベース:持株会社+北陸銀行+北海道銀行+分割子会社)

店舗・人員配置や組織の見直しなど経営資源の効果的な配分と、業務のアウトソーシングや提携戦略の展開による合理化・効率化を進めてまいりました。

	13年3月末	14年3月末	15年3月末	16年3月末	17年3月末
国内支店数(注1)	293カ店	271カ店	262カ店	255カ店	249カ店
従業員数(注2)	5,974人	5,655人	5,347人	4,832人	4,506人
人件費(注3)	510億円	466億円	434億円	405億円	402億円
物件費	435億円	441億円	432億円	434億円	433億円
人件費+物件費	946億円	908億円	867億円	840億円	835億円

(注1) 出張所、外為集中店、ローン専用ダイレクト支店、払込専門支店、共同利用ATM管理専門支店を除く。

(注2) 事務職員、庶務職員合算。在籍出向者を含む。嘱託、パート、派遣社員は除く。

(注3) 持株会社から子銀行に支払う出向社員事務協力費を含む。

## 北陸銀行(単体)

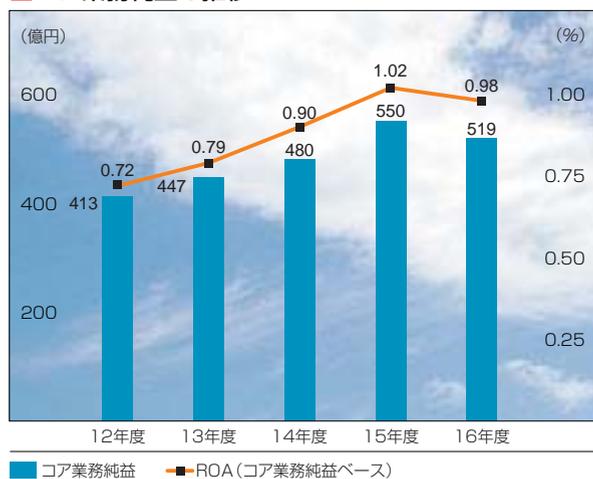
コア業務純益は、前期比30億円減少の519億円となりました。資金利益は、資金需要低迷による事業性貸出の減少や金利リスク低減のための有価証券圧縮の要因で減少し823億円となりましたが、役務取引等利益は、投資信託・保険販売や私募債・シンジケートローン等の取り組み強化により、過去最高の151億円となりました。

経常利益は、不良債権処理額の減少等により、前期比101億円増加の167億円、当期純利益は繰延税金資産圧縮を織り込んだ結果、前期比8億円減少の40億円となりました。

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
コア業務粗利益	1,018	1,017	1,013	1,070	1,036
コア業務純益	413	447	480	550	519
経常利益	104	△1,559	95	65	167
当期純利益	57	△1,356	27	49	40

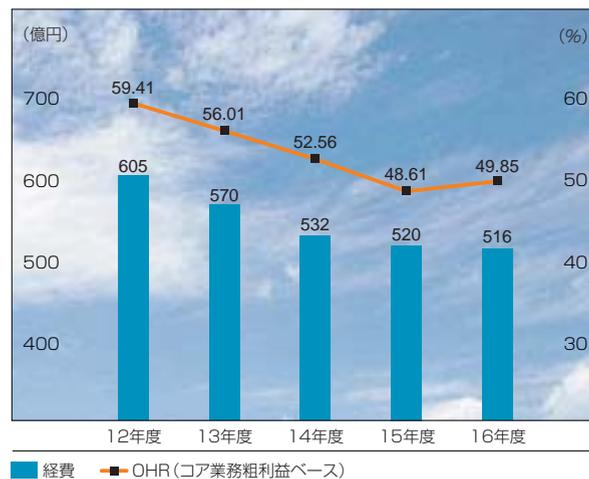
※コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券関係損益等  
 ※コア業務純益＝コア業務粗利益－経費

### ■コア業務純益の推移



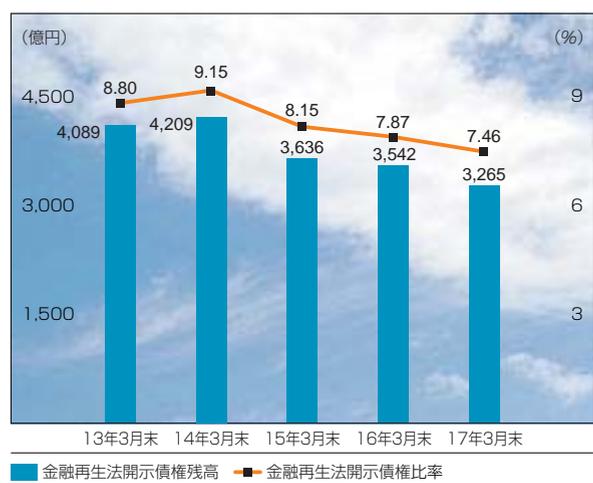
※ROA(コア業務純益ベース) =  $\frac{\text{コア業務純益}}{\text{総資産平残} - \text{支払承諾見返平残}}$

### ■経費の推移

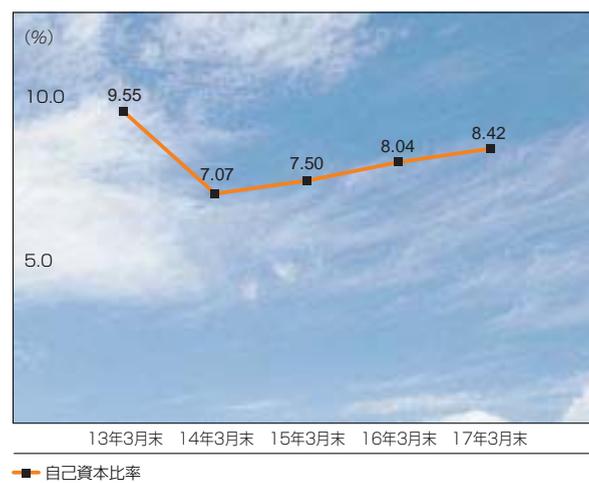


※OHR(コア業務粗利益ベース) =  $\frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}}$

### ■不良債権の状況(＋分割子会社)



### ■自己資本比率の推移



## 北海道銀行(単体)

コア業務純益は、前期比10億円増加し338億円となりました。資金利益は、資金需要低迷による事業性貸出の減少、貸出金利回りの低下を、住宅ローンの増強や有価証券の投資拡大、有価証券利回りの改善によりカバーし、横ばいとなりました。役務取引等利益は、投資信託・保険販売のほか、私募債・シンジケートローン等の積極的な取り組みにより手数料収入が増加し、10億円の増益となりました。

経常利益は、不良債権処理額の減少等により、前期比65億円増加し173億円、当期純利益は繰延税金資産圧縮を織り込んだ結果、前期比2億円の増加の111億円となりました。

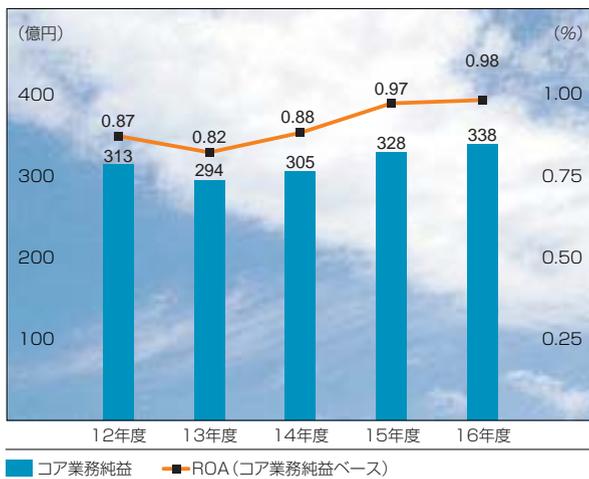
(単位:億円)

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
コア業務粗利益	711	687	691	694	713
コア業務純益	313	294	305	328	338
経常利益	69	124	△563	107	173
当期純利益	61	45	△550	108	111

※コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券関係損益等

※コア業務純益＝コア業務粗利益－経費

### ■コア業務純益の推移



※ROA(コア業務純益ベース) =  $\frac{\text{コア業務純益}}{\text{総資産平残一支払承諾見返平残}}$

### ■経費の推移



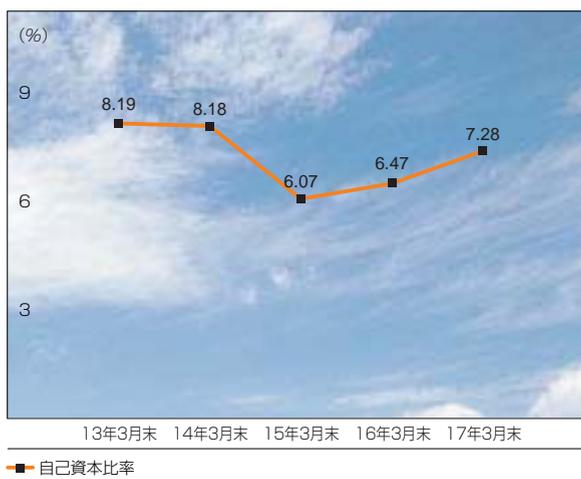
※OHR(コア業務粗利益ベース) =  $\frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}}$

### ■不良債権の状況



■金融再生法開示債権残高 ■金融再生法開示債権比率

### ■自己資本比率の推移



■自己資本比率

## 地域の預金・貸出金の状況

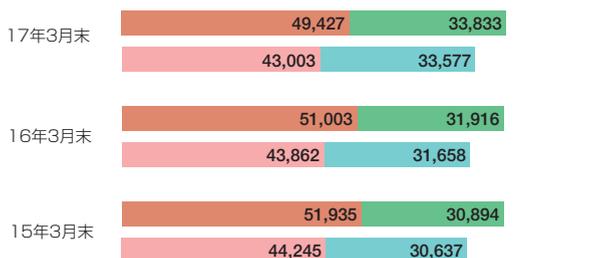
(注)『地域』とは、北陸銀行および北海道銀行の主要営業基盤地域である北陸三県(富山、石川、福井)および北海道を指します。

ほくほくフィナンシャルグループは、北陸三県および北海道を主要営業基盤とする広域金融グループとして、三大都市圏を含む情報ネットワークと総合金融サービス機能を活用し、地域のお客さまの繁栄に貢献してまいります。

地域からお預かりしたご預金は、地域のお客さまにご融資し、地域経済発展に貢献しております。

### ■ 地域の預金の状況

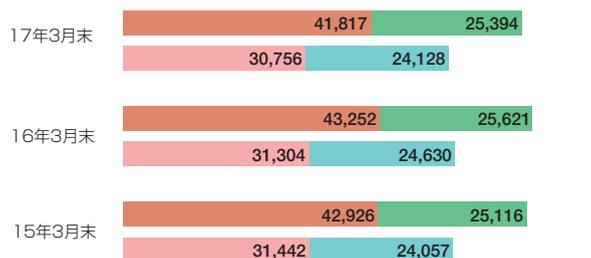
(億円)



■ 総預金(北陸銀行) ■ 総預金(北海道銀行)  
■ うち地域向け預金(北陸銀行) ■ うち地域向け預金(北海道銀行)

### ■ 地域向け貸出金の状況

(億円)

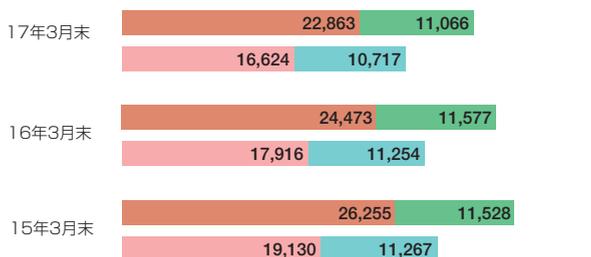


■ 総貸出金(北陸銀行) ■ 総貸出金(北海道銀行)  
■ うち地域向け貸出金(北陸銀行) ■ うち地域向け貸出金(北海道銀行)

(注) 北陸銀行の貸出金には分割子会社を含む  
RMBSを含む

### ■ 中小企業向け貸出金の状況

(億円)

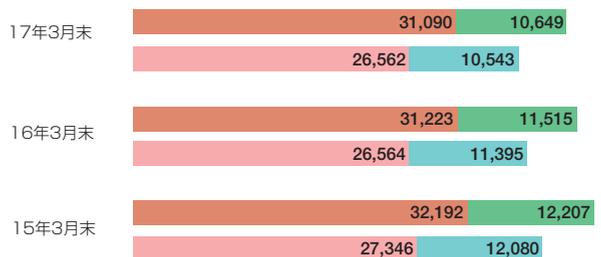


■ 中小企業向け貸出金(北陸銀行) ■ 中小企業向け貸出金(北海道銀行)  
■ うち地域の中小企業向け貸出金(北陸銀行) ■ うち地域の中小企業向け貸出金(北海道銀行)

(注) 北陸銀行の貸出金には分割子会社を含む

### ■ 中小企業向け貸出先数の状況

(先)



■ 中小企業向け貸出先数(北陸銀行) ■ 中小企業向け貸出先数(北海道銀行)  
■ うち地域の中小企業向け貸出先数(北陸銀行) ■ うち地域の中小企業向け貸出先数(北海道銀行)

(注) 北陸銀行の貸出先数には分割子会社を含む

### ■ 地域の業種別貸出金の状況 (17年3月末)

(単位:億円)

	北陸銀行		北海道銀行		地域向け貸出金計(2行合算)		国内貸出金計(2行合算)	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
製造業	4,847	15.7%	1,771	7.3%	6,618	12.0%	8,774	13.0%
農業	127	0.4%	65	0.2%	192	0.3%	194	0.2%
林業	28	0.0%	2	0.0%	31	0.0%	31	0.0%
漁業	184	0.5%	26	0.1%	210	0.3%	230	0.3%
鉱業	23	0.0%	20	0.0%	43	0.0%	44	0.0%
建設業	2,566	8.3%	1,522	6.3%	4,088	7.4%	4,894	7.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	316	1.0%	221	0.9%	537	0.9%	563	0.8%
情報通信業	170	0.5%	46	0.1%	216	0.3%	362	0.5%
運輸業	980	3.1%	557	2.3%	1,538	2.8%	1,843	2.7%
卸売・小売業	4,019	13.0%	3,730	15.4%	7,750	14.1%	10,219	15.2%
金融・保険業	396	1.2%	634	2.6%	1,031	1.8%	1,992	2.9%
不動産業	2,083	6.7%	1,483	6.1%	3,566	6.4%	5,080	7.5%
各種サービス業	3,657	11.8%	2,733	11.3%	6,390	11.6%	7,684	11.4%
地方公共団体等	2,574	8.3%	2,823	11.7%	5,398	9.8%	6,934	10.3%
その他	8,780	28.5%	8,488	35.1%	17,269	31.4%	18,360	27.3%
合計	30,756	100.0%	24,128	100.0%	54,885	100.0%	67,212	100.0%

(注) 北陸銀行の貸出金には分割子会社を含む  
RMBSを含む

公的資金の償還に向け、安定的な収益力の確保に努めてまいります。

当社は、「金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律」(以下、「早期健全化法」)に基づき、優先株式を合計1,200億3千万円(第1回第1種優先株式750億円、第1回第4種優先株式450億3千万円)発行し、協定銀行に引受いただいております。(このほか、金融機能安定化法に基づき、北陸銀行が協定銀行より永久劣後ローン200億円を借入しております。)

昨年9月の経営統合にともない、平成11年9月30日付け金融再生委員会の「経営健全化計画の見直しについての基本的考え方」および「金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律施行令」第1条の2の規定に基づき、平成20年3月期までの計画を策定いたしました。

本計画においては、広域地域金融グループとして他に類を見ない特徴を活かし、経営統合の目的である「営業力の強化」、「経営の効率化」、「経営基盤の安定化」を実現するとともに、公的資金の償還に向け、安定的な収益力の確保に努めてまいります。

## 経営統合の目的と戦略

### 1. 営業力の強化

北海道銀行の北海道内におけるきめ細かい金融サービスと、北陸銀行の北陸地方・三大都市圏を含めた本州における幅広いネットワークを結合させることにより、特に北海道内における営業力を飛躍的に向上させる。

- 広域ネットワークを活用したビジネスマッチングの取組強化
- 両行道内インフラ活用による企業周辺取引(取引先、従業員等)の取り込み
- 両行ノウハウ共有による提案力・ソリューション機能の強化

### 2. 経営の効率化

両行のお客さまとの良好なお取引関係を維持・発展させていくことに重点を置きながら、北海道地区で重複するインフラを結合・再編するなどにより、経営資源をより有効に活用し、効率的で収益性の高い営業体制を構築する。

- ほくほくフィナンシャルグループとして効率的・効果的な店舗ネットワーク再構築
- 道内メールカー、バックオフィス業務の共同化
- 企画・リスク管理等のグループ総体にかかる部分を持株会社に集約

### 3. 経営基盤の安定化

経済環境の異なる地域にまたがる営業基盤を包含することにより、より安定性のある資産ポートフォリオを構築し、市場から高い信頼を受け、お客さまから支持される地域金融グループを目指す。

- 広域営業を活かし、地域的・業種的に分散された資産ポートフォリオを構築
- 持株会社により、子銀行・子会社収益の変動を吸収し、安定的な資本政策・配当政策を実施
- ノウハウ共有と広域営業によるM&A・企業再生支援機能等の強化

経営健全化計画においては、収益性、効率性、健全性の一層の向上を目指し、下図に記載します5項目の計数目標を掲げ、平成20年3月期までに達成を目指しております。

計画改定後初年度となります平成16年度の実績につきましては、計画に掲げた収益増強策とリストラ策を着実に実践した結果、コア業務純益858億円を確保いたしました。

一方、担保評価の厳格化や引当強化を行った結果、不良債権処理コストは、計画を上回る水準となりましたが、経常利益・当期純利益はいずれも計画を上回りました。

今後とも、安定的な収益を確保することにより、お客さまと市場からの信頼を確かなものとしてまいります。

● 地銀トップクラス収益力を更に強化

〔平成20/3月期目標〕業務純益 1,005億円  
当期純利益 421億円

● 経費抑制に努め更なる効率性を追求

〔平成20/3月期目標〕OHR 46.48%

● 企業再生支援・不良債権処理を加速

〔平成20/3月期目標〕不良債権比率5%台以下

● 公的資金償還に十分な剰余金を積み上げ

〔平成22/3月末目標〕剰余金 1,928億円  
(一斉転換期限平成22/7.8月、公的資金優先株 1,200億円)

● 市場から信任される財務基盤を確立

〔平成20/3月期目標〕自己資本比率 9.18%  
(繰延税金資産のTier I に占める割合を20%に縮小)

【収益】(北陸銀行+北海道銀行)

(単位:億円)

	17/3月期 計画	17/3月期 実績	計画比	18/3月期 計画	19/3月期 計画	20/3月期 計画	20/3月期計画と 17/3月期実績比
業務粗利益	1,736	1,802	+65	1,767	1,815	1,879	+77
経費	900	891	△8	887	879	873	△18
(OHR<経費/業務粗利益>)	(51.83%)	(49.49%)	(△2.34%)	(50.19%)	(48.46%)	(46.48%)	(△3.01%)
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	836	910	+73	880	935	1,005	+95
コア業務純益※	828	858	+30	872	927	989	+131
不良債権処理額	535	595	+60	390	310	310	△285
経常利益	287	340	+53	476	607	673	+333
当期純利益	141	152	+10	259	361	421	+269

【剰余金残高】(ほくほくFG+北陸銀行+北海道銀行)

	17/3月期 計画	17/3月期 実績	計画比	18/3月期 計画	19/3月期 計画	20/3月期 計画	20/3月期計画と 17/3月期実績比
剰余金残高	450	463	+13	647	940	1,299	+836

【自己資本比率】(ほくほくFG連結ベース)

	17/3月期 計画	17/3月期 実績	計画比	18/3月期 計画	19/3月期 計画	20/3月期 計画	20/3月期計画と 17/3月期実績比
自己資本比率	7.82%	8.33%	+0.51%	8.12%	8.58%	9.18%	+0.85%
└ Tier1比率	5.91%	5.95%	+0.04%	6.34%	6.89%	7.57%	+1.62%

※コア業務純益=業務純益(一般貸倒引当金繰入前)-国債等債券関係損益等

※不良債権処理額には、一般貸倒引当金繰入を含む

※剰余金残高は、利益剰余金のうち利益準備金以外のもの

経営健全化計画においては、法人のお客さま、個人のお客さまにより一層お役に立つために、様々な営業施策の展開および営業体制の強化を図ってまいります。

また、従来から取り組んでまいりました効率化策を進め、更なるローコストオペレーション体制を確立してまいります。

## 法人対応

- **貸出増強** ～売上高10億円以上企業のメイン化、シェアアップ推進  
小規模企業層への取引拡大
- **適正な金利対応** ～リスクに応じた金利適用を徹底
- **ソリューション営業の展開** ～広域ネットワークを活かしたビジネスマッチング等の積極的提案

## 個人対応

- **個人向けローン増強～消費者ローン比率30%へ(2行合算)** ～ローンプラザを推進拠点とした営業強化  
～カードローンの増強
- **給与・年金受取口座の増強** ～取引優遇サービス、アドバイス機能の向上
- **預かり資産の推進強化** ～投資信託、保険等、新種商品の販売強化

## 営業体制の強化

### 1.本部・営業店体制

- **本部：営業店支援、本部渉外機能の強化**
- **営業店：お客さまのニーズに応じた店舗機能の見直し**  
(エリア営業体制、ローンプラザ、他業態との融合店舗等)

### 2.その他チャネル戦略

- **ATM網の拡充(コンビニATM等)**
- **ダイレクトバンキング機能強化(インターネット等)**

一方、従来から効率的な業務運営を行ってまいりましたが、経営統合後におきましてもこの方針を堅持し、引き続きローコストオペレーションの徹底を図ってまいります。

## リストラ計画(2行合算)

### 人員

平成16年3月 4,832人⇒  
平成20年3月 4,280人(▲552人)  
平成9年3月比 ▲2,956人(▲40.9%)

### 支店数

平成16年3月 255支店⇒  
平成20年3月 245支店(▲10支店)  
平成9年3月比 ▲68支店(▲21.7%)

(詳細につきましては、「経営の健全化のための計画」を参照願います)

# 不良債権への対応

資産の健全性の維持に努めてまいります。

## 資産内容と開示債権の状況

当社は、日本公認会計士協会の実務指針に基づき、金融検査マニュアルを参考に、自己査定基準、償却・引当基準を制定し、適切な自己査定と適正な償却・引当を実施しております。

### ● 金融再生法（金融機能再生緊急措置法）に基づく開示債権（平成17年3月期:部分直接償却後）

#### 2行合算+分割子会社

#### 引当・保全状況

自己査定における債務者区分	金融再生法に基づく開示債権(A)	分類				担保・保証(B)	引当金(C)	引当率(D)	保全率(E)
		非分類	Ⅱ分類	Ⅲ分類	Ⅳ分類				
破綻先 295	破産更生債権およびこれらに準ずる債権 857	引当金・担保・保証等による保全部分 281	575	全額引当 —	全額償却・引当 —	690	166	100.00	100.00
実質破綻先 560		1,244	772	547	—				
破綻懸念先 2,565	危険債権 2,565					1,134	883	61.72	78.65
要注意先 8,442	要管理債権 1,327	要管理先 273	要管理先 1,629	要管理先以外 2		要管理債権 336	要管理債権 282	要管理債権 28.50	要管理債権 46.62
		要管理先以外 6,540	要管理先以外 3,843			(要管理先) 655	(要管理先) 359	(要管理先) 28.84	(要管理先) 53.37
正常先 57,631	正常債権 64,747	要管理先以外 2,693	要管理先以外 3,843			要管理先以外 3,797	要管理先以外 110	4.03	
合計 69,496	合計 69,496	非分類 62,125	Ⅱ分類 6,820	Ⅲ分類 549	Ⅳ分類 —				要管理債権 以下合計 73.55
									要管理債権 以下合計 81.46

(部分直接償却後)

(部分直接償却前)

※引当率(D) = 引当金(C) ÷ (債権額(A) - 担保・保証(B)) × 100

※保全率(E) = (引当金(C) + 担保・保証(B)) ÷ 債権額(A) × 100

※部分直接償却とは、資産の自己査定により「回収不能または無価値」と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額または保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を貸倒償却として債権額から直接減額することをいいます。

非分類：回収の危険性または価値の毀損の可能性について問題のない債権

Ⅲ分類：最終の回収または価値について重大な懸念がある債権

Ⅱ分類：回収について通常の度合を超える危険を含むと認められる債権

Ⅳ分類：回収不可能または無価値と判定される債権

### ● リスク管理債権の状況

(単位：億円)

	破綻先債権	延滞債権	3ヵ月以上延滞債権	貸出条件緩和債権	リスク管理債権総額
2行合算+分割子会社	411	2,909	6	1,320	4,648
北陸銀行単体+分割子会社	312	1,911	6	956	3,186
北海道銀行単体	98	998	—	363	1,461

### 金融再生法に基づく開示債権および銀行法に基づくリスク管理債権の相違

#### ■ 金融再生法に基づく開示債権

##### 【法令等の根拠】

金融再生法により、平成11年9月期決算以降開示が義務付けられています。

##### 【開示対象】

貸出金および支払承認見返、外国為替、未取利息、仮払金、貸付有価証券。但し、要管理債権は貸出金のみ。

##### 【計上の方法】

債務者区分に従って、債務者全ての債権を計上します。

##### 【破産更生債権及びこれらに準ずる債権】

破産、会社更生等の事由により経営破綻に陥っているお取引先に対する債権及びこれらに準ずる債権のことです。

##### 【危険債権】

お取引先が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本及び利息の受取ができない可能性の高い債権のことです。

##### 【要管理債権】

3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権（「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」を除く）のことです。

#### ■ 銀行法に基づくリスク管理債権

##### 【法令等の根拠】

銀行法により開示が義務付けられています。

##### 【開示対象】

貸出金

##### 【計上の方法】

同一債務者宛債権につき、個々の債権ごとに計上します。

##### 【破綻先債権】

破産、会社更生などにより、銀行が返済を受けることが困難となる可能性が高い貸出金のことです。

##### 【延滞債権】

お取引先の業績不振などにより、利息の支払を6ヵ月以上受けていないような貸出金のことです。

##### 【3ヵ月以上延滞債権】

元金または利息の支払が3ヵ月以上滞っている貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。

##### 【貸出条件緩和債権】

お取引先の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他のお取引先に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものです。

● 金融再生法（金融機能再生緊急措置法）に基づく開示債権（平成17年3月期:部分直接償却後）

北陸銀行単体+分割子会社

引当・保全状況

自己査定における債務者区分	金融再生法に基づく開示債権(A)	分類				担保・保証(B)	引当金(C)	引当率(D)	保全率(E)
		非分類	Ⅱ分類	Ⅲ分類	Ⅳ分類				
破綻先 191	破産更生債権およびこれらに準ずる債権	引当金・担保・保証等による保全部分		全額引当	全額償却引当	464	107	100.00	100.00
実質破綻先 381		169	402	—	—				
破綻懸念先 1,730	危険債権 1,730	857	471	400	—	716	613	60.51	76.87
要管理先 5,082	要管理債権 963	要管理先 230	要管理先 1,096			要管理債権 187	要管理債権 218	要管理債権 28.16	要管理債権 42.16
	要管理先以外 3,755	要管理先以外 1,703	要管理先以外 2,052			(要管理先) 469	(要管理先) 243	(要管理先) 28.42	(要管理先) 53.73
正常先 36,362	正常債権 40,482	36,362				要管理先以外 2,465	要管理先以外 50	3.88	
<b>合計</b> 43,747	<b>合計</b> 43,747	<b>非分類</b> 39,323	<b>Ⅱ分類</b> 4,023	<b>Ⅲ分類</b> 400	<b>Ⅳ分類</b> —				要管理債権 以下合計 70.68
									要管理債権 以下合計 80.19

(部分直接償却後)

(部分直接償却前)

● 金融再生法（金融機能再生緊急措置法）に基づく開示債権（平成17年3月期:部分直接償却後）

北海道銀行単体

引当・保全状況

自己査定における債務者区分	金融再生法に基づく開示債権(A)	分類				担保・保証(B)	引当金(C)	引当率(D)	保全率(E)
		非分類	Ⅱ分類	Ⅲ分類	Ⅳ分類				
破綻先 104	破産更生債権およびこれらに準ずる債権	引当金・担保・保証等による保全部分		全額引当	全額償却引当	225	58	100.00	100.00
実質破綻先 179		112	172	—	—				
破綻懸念先 835	危険債権 835	386	300	147	—	417	269	64.67	82.33
要管理先 3,359	要管理債権 364	要管理先 42	要管理先 532			要管理債権 148	要管理債権 64	要管理債権 29.76	要管理債権 58.44
	要管理先以外 2,784	要管理先以外 990	要管理先以外 1,791			(要管理先以外) 2	(要管理先) 186	(要管理先) 115	(要管理先) 29.76
正常先 21,269	正常債権 24,265	21,269				要管理先以外 1,332	要管理先以外 60	4.17	
<b>合計</b> 25,749	<b>合計</b> 25,749	<b>非分類</b> 22,801	<b>Ⅱ分類</b> 2,797	<b>Ⅲ分類</b> 149	<b>Ⅳ分類</b> —				要管理債権 以下合計 79.86
									要管理債権 以下合計 84.61

(部分直接償却後)

(部分直接償却前)

償却・引当の方針

金融再生法の開示区分	自己査定における債務者区分		償却・引当方針
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	破綻先	法的、形式的な経営破綻の事実が発生している債務者	担保、保証で保全されていない債権額に対し100%を引当
	実質破綻先	深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しが無い状況にある債務者	
危険債権	破綻懸念先	経営難の状態にあり、経営改善計画の進捗が芳しくなく、今後経営破綻に陥る可能性が大きい債務者	担保、保証で保全されていない部分に対し、個別に予想損失額を見積り、引当
要管理債権	要管理先	3ヵ月以上延滞債権または、貸出条件緩和債権のある債務者	貸倒実績率を基に、今後3年間の予想損失額を引当
正常債権	要注意先	貸出条件、履行状況に問題がある、業況が低調ないし不安定、または財務内容に問題がある債務者	貸倒実績率を基に、今後1年間の予想損失額を引当
	正常先	業況が良好でかつ財務内容にも特段の問題のない債務者	

\*自己査定における要管理先は、金融再生法における要管理債権を有する債務者であり、償却・引当に当たっては、債務者単位で引当金を算出します。

# コーポレート・ガバナンス

経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

## 基本的考え方

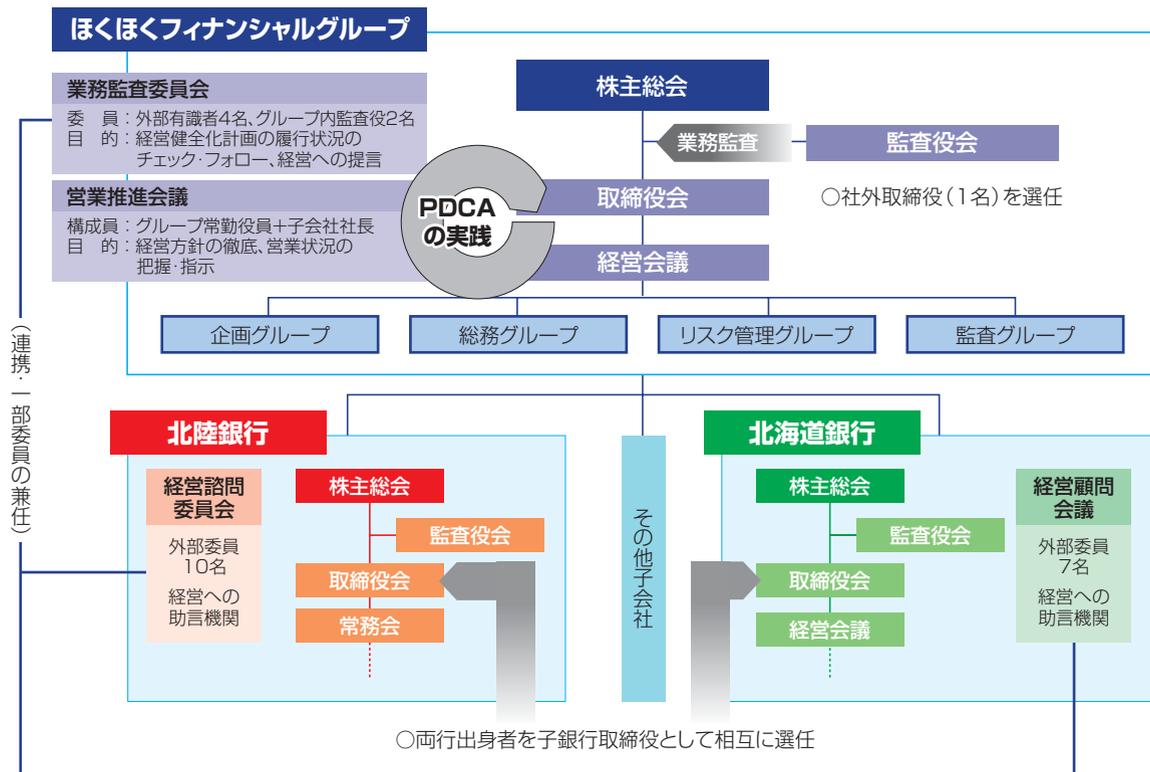
ほくほくフィナンシャルグループは、企画部門の強化と管理部門の集約による経営管理体制を構築し、子銀行の業務執行の妥当性に関するチェック機能を強化するとともに、外部の客観的意見の経営への吸収・反映に努めることで、経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

## コーポレート・ガバナンスの状況

当社では、意思決定機関である株主総会・取締役会を頂点として、社内規定により運用権限の委譲を行うことで迅速に意思決定する体制を構築しております。取締役会が決定した基本方針に基づく細目ないし専門的事項にかかる案件は、経営会議をはじめとする機関において迅速に対応しております。また、経営会議とは別にグループ会社間で営業方針の徹底を図る「営業推進会議」、健全化計画のチェック・フォローを担う外部専門家による「業務監査委員会」を設置し、意思決定、業務執行、評価・修正を循環的に行う体制を構築しております。

主要な機関等の概要は以下のとおりです。

- ① **取締役会** 経営に関する重要な事項、方針および業務の執行を決定するとともに、業務執行の監督機能を担っております。
- ② **監査役会** 取締役会への出席や意見具申により取締役の職務執行の適法性を監査しております。
- ③ **経営会議** 取締役会の決議した基本方針に基づき経営上の重要事項の決定を行っております。
- ④ **業務監査委員会（原則年4回開催）** 専門的観点からの提言を経営に反映することで経営健全化計画の履行の確実性を高め、グループ経営の透明性を高める機能を担っております。
- ⑤ **営業推進会議（原則月1回開催）** 当社常勤取締役と子会社社長を構成員として、グループ全体で重要事項・経営方針の浸透を図るほか、各社の営業状況を確認することで適切な業務執行に反映させる機能を担っております。



# コンプライアンス体制

グループとして法令や社会的規範の遵守を着実に実践しております。

## コンプライアンス(法令等の遵守)に対する考え方

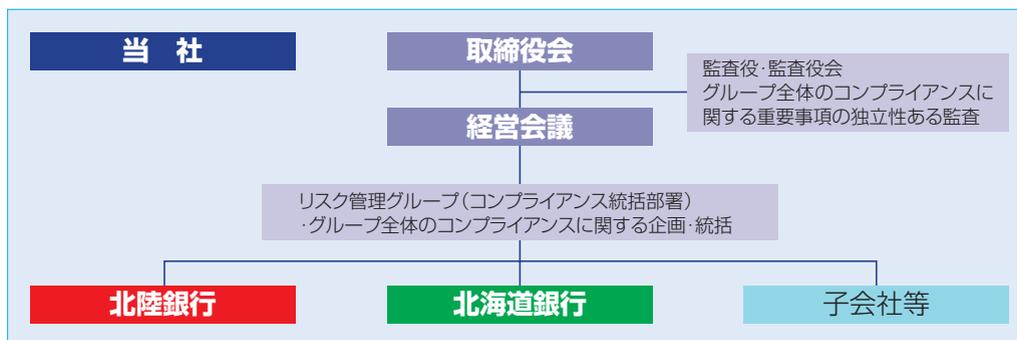
ほくほくフィナンシャルグループは、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、コンプライアンスの不徹底が経営基盤を揺るがすことを強く認識し、基本方針を以下のとおり定め、誠実かつ公正な企業活動を遂行するように努めております。

当社グループでは、グループ全体のコンプライアンス体制を確立するため、組織体制を整備するとともに、グループ各社のコンプライアンスの基本方針・諸規定を策定し、当社とグループ各社が連携して対応しております。

当社においては、グループ内のコンプライアンスに関する諸施策の実施責任者としてコンプライアンス統括管理者を配置しております。また反社会的勢力を排除し、毅然とした対応をとるべくマルボー対応統括管理者を配置しております。

また、コンプライアンスを実現するための具体的な実践計画である「コンプライアンス・プログラム」を策定し、計画的にコンプライアンス体制の整備、役職員の意識の向上を図っております。

北陸銀行、北海道銀行の各部店およびグループ各社には、コンプライアンスの責任者を配置し、コンプライアンスに関する職場内の教育・啓蒙等の諸施策を積極的に実施しております。



## コンプライアンスの基本方針

### 1. 基本的使命・社会的責任の認識

地域金融機関としての公共的使命と社会的責任を認識し、健全な業務運営により内外の信頼確立に努めます。

### 2. 質の高い金融サービスの提供

質の高い総合金融サービスの提供により、地域経済・社会の安定的発展やお客さまの生活の充実・向上に貢献します。

### 3. 法令やルールの厳格な遵守

法令やルールを厳格に遵守し、企業倫理・社会通念を逸脱することのないよう公正かつ堅実に行動します。

### 4. 反社会的勢力の排除

社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力を許さず、毅然とした対応で臨むことで健全な地域社会づくりに寄与します。

### 5. 経営の透明性確保

的確で円滑な情報開示と意思決定に努め、透明性の高い経営・組織風土を目指します。

# リスク管理体制

リスクの規模・態様に応じて適切なリスク管理体制の整備に取り組んでおります。

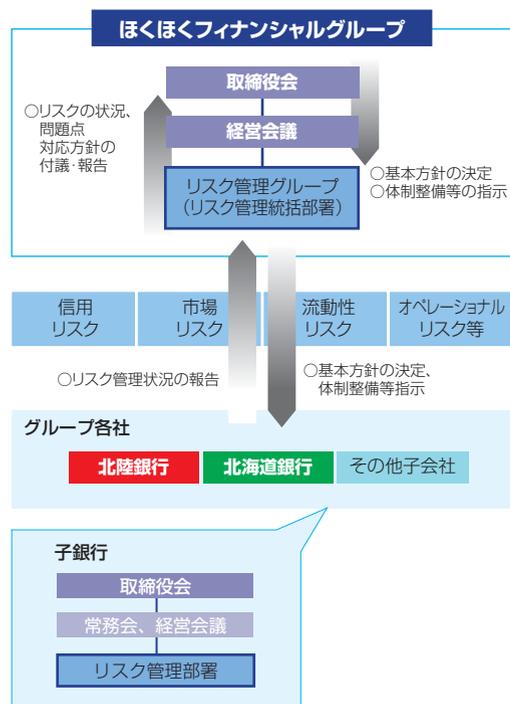
## ほくほくフィナンシャルグループのリスク管理体制

金融の自由化、グローバル化が進展するなか、金融業務はますます多様化、複雑化しており、金融機関は、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスク等といった様々なリスクを抱えております。

当社グループでは、経営の健全性の確保と収益力の向上を図り、お客さまの預金保護や株主・債権者からの信用を確保する上で、リスク管理をグループ経営の最重要課題の一つとして認識し、リスク管理体制の整備に取り組んでおります。

具体的には、当社およびグループ各社のそれぞれにリスク管理部署を設置し、緊密に連携しながら、グループとしての統合的なリスク管理に努めております。当社リスク管理グループは、当社グループのリスク管理統括部署として、リスク管理に関する基本的事項を定めた「リスク管理の基本方針」や「リスク管理規程」を決定し、グループ各社は、その基本方針に則り、それぞれが保有するリスクの規模・態様に応じてリスク管理体制を整備し、適切なリスク管理を実施しております。当社は、グループ各社からリスク管理の状況等について報告を受け、グループ各社に対して適切な指示を行うとともに、当社グループのリスクの状況と問題点およびその対応方針を取締役会等に付議・報告することにより、経営の健全性を確保しコーポレートガバナンスを強化しております。

## リスク管理体制



## 信用リスク管理

信用リスクとは、お取引先の経営状態の悪化などにより貸出金などの元本・利息が回収できなくなるリスクを指します。これは、金融の仲介を使命とする銀行にとって、避けて通ることのできないリスクではありますが、当社グループでは、資産の健全性の維持・向上を図るため、信用リスク管理体制の整備・強化に努めております。

組織・体制面では、業務推進と審査の担当役員・部署の分離を徹底し、業務推進に影響されない厳格な審査・管理を行っております。

個別の与信判断に当たっては、規範・方針等を明示した「クレジットポリシー」に従い、厳正な審査を行っております。そのために、システムサポートの充実を図るほか、研修等の施策を通じて審査能力の強化に努めるなど、審査体制の整備にも積極的に取り組んでおります。

また、融資実行後のフォローを通じて不良債権の発生防止に努めるとともに、不良債権を分別管理する体制の構築と、企業再生支援機能の強化を通じて資産の健全化に努めております。

平成16年12月には、北陸銀行の子会社として北銀コーポレートを設立し、東京エリアの再生・リストラニーズのあるお取引先への貸出金を北陸銀行から分離する体制を整備しております。

子銀行は行内格付制度\*による信用リスクの評価と債務者区分毎の予想損失率を算出し、リスクに見合った適正な金利の確保に努めるとともに、当社の「グループ与信限度ライン管理規定」に基づいて、市場性・与信・オフバランス・与信を合算した与信集中リスクの抑制を図るなど、さらなる信用リスク管理の向上を目指しております。

\*「行内格付制度」…貸出先を信用度に応じて区分し、格付にあたっては、財務面や企業特性等をランク付けし、総合的な検討を行っております。

## 市場リスク管理

市場リスクとは、金利・為替などの相場変動により損害を被るリスクのことです。預貸業務を行う上でも、市場性の業務を行う上でも避けることのできないリスクであり、近年、ますます複雑化しております。

当社グループは市場リスク管理の重要性に鑑み、子銀行にALM委員会を設置して、預貸金を含めた市場リスクを管理しながら、安定的な収益を確保できる運営に努めております。

ALM……資産・負債の総合管理 (Asset-Liability-Management) の略

### (1) 金利リスク管理

子銀行は、貸出金などの資産 (Asset) と預金などの負債 (Liability) の期間構造が異なるため、常に金利リスクにさらされていますが、資産・負債構造を把握して金利リスクを一元的に管理しているほか、金利リスクの軽減・管理を目的として金利スワップ等のデリバティブ取引を効果的に活用しております。

### (2) 市場業務でのリスク管理

市場業務の取引担当部署は、リスク管理の基本方針や取引限度額をはじめとする各種の厳格な運用ルールの下で業務を遂行しております。

また、取引担当部署から独立したリスク管理部署が、各社のリスク管理システムにより、リスクの状況をモニタリングし、経営陣へ報告しております。

## 流動性リスク管理

当社では、安定した資金繰りを行うために「流動性リスク管理規定」に基づいて、子銀行の運用・調達の状況を的確に把握し、円滑な資金繰りに万全を期しております。

また、子銀行は国債等、資金化の容易な支払準備資産も十分に確保しており、市場環境の急変にも耐えうる体制を構築しております。

## オペレーショナルリスク管理等

お客さまからの信頼を維持・向上させていくため、当社グループでは、不正・事故・トラブルの未然防止に万全を尽くしております。

### (1) 事務リスク管理

当社グループでは事務上の事故・トラブルの発生を防止し、正確で迅速な事務処理が維持されるよう、規程類の整備、事務処理体制の改善、本部による臨店指導、営業店事務の集中化、自動化機器の導入等を進め、事務水準の向上に努めております。

他方、事務リスクをはじめとする各種リスクを回避し、トラブルを防止するために、内部監査を実施し、相互牽制体制と厳正な事務処理体制の確立に努めております。

### (2) システムリスク管理と情報資産保護

金融業務の高度化や取引量の増大に伴い、コンピュータシステムは欠かすことができないものとなる一方で、システムの安定稼働の重要性が高まってきております。また、平成17年4月に個人情報保護法が全面施行されたことに伴い、情報資産保護の重要性はますます高まっております。

当社グループでは、「情報資産の安全性確保に関する基本方針 (セキュリティポリシー)」、「システムリスク管理に関する基本規定 (システムリスクスタンダード)」、「顧客情報保護管理規定」などを制定し、厳正な管理・運営体制を敷くとともに、各種の安全管理措置を実施しております。

### (3) コンティンジェンシープラン

当社グループはリスク管理を経営の最重要課題の一つと位置づけ、その高度化に努めておりますが、万が一、災害等の不測の事態が発生した場合でも、その影響を最小限に抑え、業務を継続できるよう、「コンティンジェンシープラン」および緊急事態別のマニュアルを策定し、危機に対応できるよう努めております。

# 内部監査体制

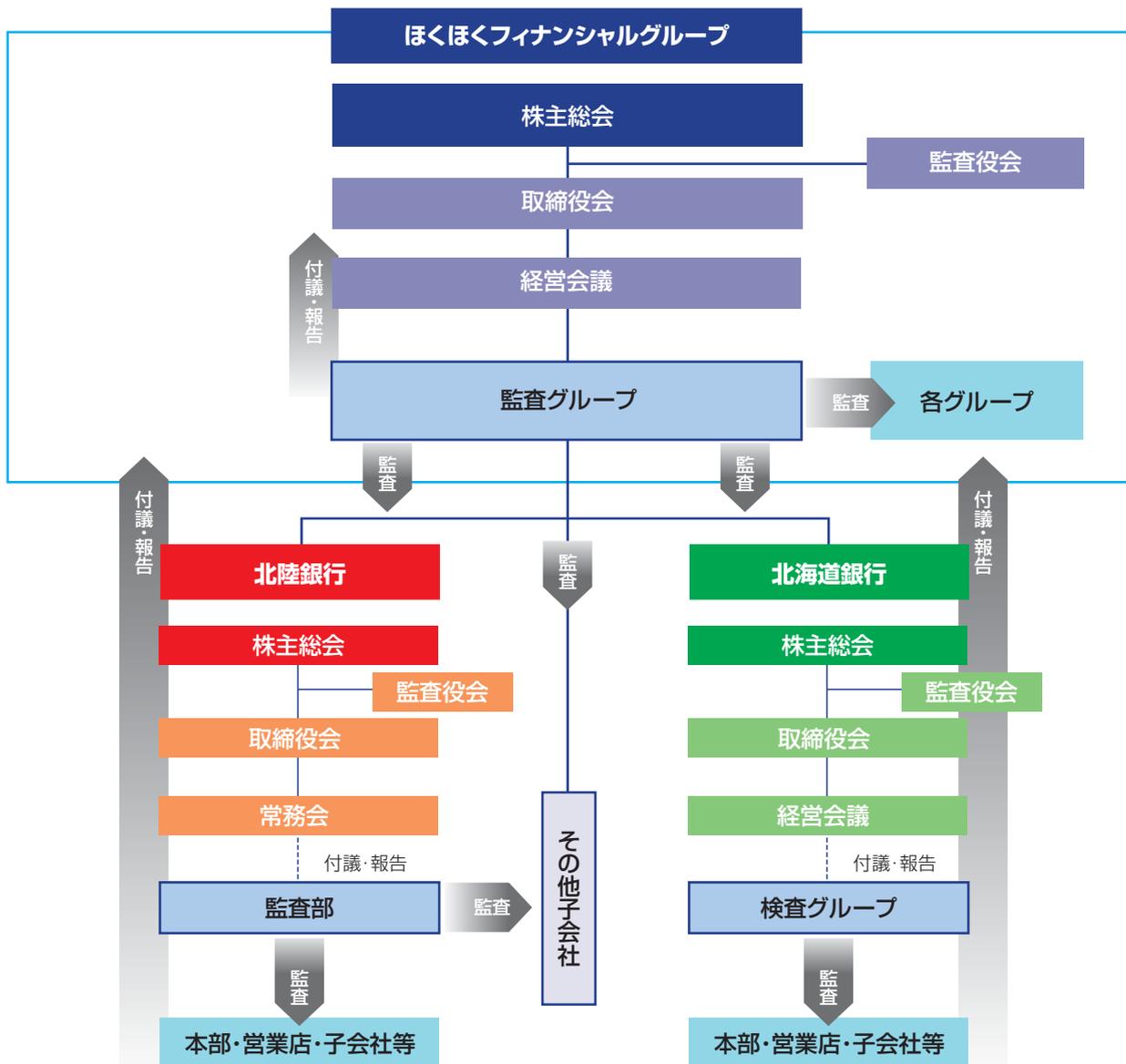
当社グループの健全な経営を実践するため、内部監査体制を強化してまいります。

## 基本的考え方

当社グループでは、リスク管理・法令遵守などの内部管理体制が諸法令・規則・各社内規程等に準拠し、有効に機能しているかを監査することにより、不正・事故・過誤を防止し、健全かつ適切な経営に資することを目的として内部監査体制を整えております。

当社には、内部監査部門の統括部署として監査グループを、北陸銀行に監査部、北海道銀行に検査グループを設置し、当社グループ全社を対象として内部監査を実施しております。監査計画の策定に際しては、リスクの種類・程度に応じた監査を志向しております。

「内部監査」とは、被監査部門から独立した内部監査部門が被監査部門における内部管理体制等の適切性、有効性を検証するプロセスです。このプロセスは、被監査部門における内部管理体制等の評価および問題点の改善方法の提言等まで行うものです。



ほくほくフィナンシャルグループ

内部監査体制

個人情報を保護するため、関係諸法令の遵守に努めております。

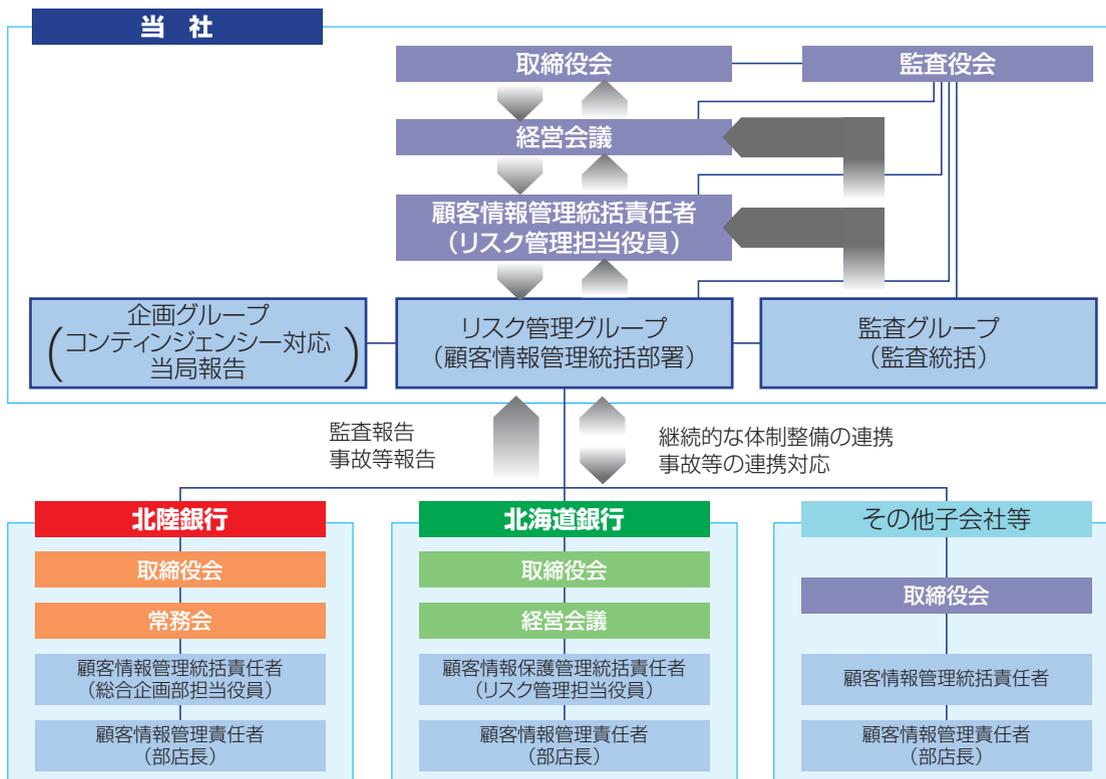
## 1. 個人情報保護に対する基本的な考え方

当社グループは、お客さまの個人情報につきましては、関係諸法令等を遵守し適切に保護・利用等を行うとともに、地域社会に貢献できる金融機関としてお客さまからの最大限の信頼を得ることができるよう努力しております。

## 2. 当社グループの顧客情報保護管理体制

- (1) 「情報資産の安全性確保に関する基本方針（セキュリティ・ポリシー）」に基づき、個人情報を含めたお客さまに関するあらゆる情報の管理規定として「顧客情報保護管理規定」を制定しております。
- (2) 「顧客情報保護管理規定」において、当社の顧客情報管理統括責任者としてリスク管理担当役員を、顧客情報管理統括部署としてリスク管理グループを定めております。  
リスク管理グループは当社グループ会社の顧客情報管理体制について統括しております。
- (3) 子会社等におきましても、同様に顧客情報管理統括責任者および顧客情報管理統括部署を定めております。顧客情報管理統括責任者はグループの窓口であるリスク管理グループと連携してお客さまからお預かりした顧客情報の保護・安全管理措置等を実施しております。
- (4) また、顧客情報全般についての管理体制は、十分機能するよう継続的に見直しを図り、問題点については直ちに改善してまいります。

### 当社グループの顧客情報保護管理体制



## 3. 個人情報保護宣言等のホームページへの掲載

「個人情報保護宣言」、「個人情報保護方針」、「お客さまへの個人情報の利用目的について」、「個人情報の開示等の依頼について」、「お客さまの情報の共有化に関するお知らせ」につきましては、当社ホームページに掲載しております。

・当社ホームページ <http://www.hokuhoku-fg.co.jp>

## ほくほくフィナンシャルグループ

### 1. 持株会社「ほくほくFG」スタート

16年9月1日に北陸銀行を傘下に持つ持株会社である「ほくぎんフィナンシャルグループ」に北海道銀行が合流・商号変更し、持株会社「ほくほくフィナンシャルグループ」が発足いたしました。持株会社による経営管理のもと、北陸銀行・北海道銀行の2ブランドを核とする総合金融サービスを提供する体制へ移行いたしました。



### 2. 北陸銀行・北海道銀行の業務協力本格化

16年5月には札幌圏内の行内メールの共同化と北陸銀行の道内現送金業務・両替金準備業務を北海道銀行・道銀ビジネスサービスへ委託いたしました。16年9、10月にはそれぞれ富山市・札幌市で両行取引先が参加する「ビジネスフォーラム」を開催し、多数の企業関係者の方が来場され、活発な商談が行われました。16年10月には、「ほくほくフィナンシャルグループビジネスマッチングタスクフォース」を両行24名(北陸銀行16名、北海道銀行8名)で設置し、テレビ会議システムを活用し、北陸三県・北海道と三大都市圏を繋ぐビジネス情報の提供体制を整備いたしました。

また商品開発では共同商品「ほくほくファンド2004」の開発や債権流動化業務(北陸銀行のノウハウを北海道銀行が活用)、宝くじ付き定期預金(北海道銀行のノウハウを北陸銀行が活用)などで両行の協力体制を順次構築しております。

### 3. 両行間店舗網の再構築



北海道銀行東京支店・東京事務所・資金証券グループは17年2月14日に北陸銀行東京支店ビル(室町中央ビル)に移転いたしました。

17年3月22日には、北陸銀行北見支店の業務を北海道銀行北見支店に、17年4月18日には北陸銀行網走支店の業務を北海道銀行網走支店に、北海道銀行大阪支店の業務を北陸銀行大阪支店にそれぞれ継承いたしました。

さらに17年度中に北海道銀行光星出張所(札幌市)の移転に伴い、同所跡地に北陸銀行苗穂支店が、同支店跡地に北海道銀行創成支店がそれぞれ順次移転します。

### 4. 劣後特約付社債200億円の発行

17年3月1日に第1回期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)を200億円発行いたしました。資金は北陸銀行および北海道銀行への劣後貸付金に充当いたしました。

### 5. 「YOSAKOIソーラン祭り」へ初出場



17年6月8日から札幌市で開催された「第14回YOSAKOIソーラン祭り」に、初出場いたしました。

今回で9回目の出場を誇る老舗チーム「北海あほんだら会」のご支援をいただき、合同チーム「北海あほんだら会&ほくほくFG」を結成、出場334チームの中でも最大級の規模を誇る総勢150名が勇壮な演舞を披露いたしました。全国各地から集まった参加者、観客の皆さまとともに祭りを楽しみ、達成感、一体感を共有することができました。

## 北陸銀行

1. ATMの1日当たりの  
利用限度額設定

昨今、全国的に増加しているキャッシュカードの盗難・偽造等による犯罪への対応策として、17年3月14日よりATM利用時（お引き出し、お振り込み）の1日当たりのご利用限度額をお客さまの申し出に応じて口座ごとに1万円から1,000万円までの範囲内で個別設定できるお取り扱いを開始いたしました。（お申し出のない場合、1日当たりの利用限度額を100万円とさせていただきます。）

## 2. 中国ビジネス



北陸銀行では中国進出ニーズのあるお取引先471社で「ほくりく長城会」を組織し、情報提供・情報交換の場を提供し、会員の皆さまから大変ご好評をいただいております。16年10月には、大連市人民政府（中華人民共和国）との間で経済交流協定を締結し、今後の地元企業と大連市の経済面での交流をより積極的に支援してまいります。また、同年10月に中国（香港を含む）勤務経験者等約100名を中心に、将来的にも急成長が見込まれる中国市場への多様なニーズに迅速・的確に対応するため、中国ビジネス相談ニーズの高い32店舗に中国ビジネスデスクを設置いたしております。

## 3. 株式投資ニーズへの対応

株式投資ニーズのあるお客さまへの利便性向上として、16年11月に松井証券株式会社との間で、同社の証券口座申込書を銀行窓口で受付する事務に関する業務提携を開始いたしました。また16年12月より、野村証券株式会社と証券仲介業の業務提携を行い、本店営業部ほか3店舗で、同社の証券口座開設業務および株式累投「積立て倶楽部」の仲介を開始いたしました。

## 4. ローソンとの業務提携拡大

東京支店、京都支店に続き、富山南中央支店（16年5月）、新宿支店（17年5月）、上野支店（17年6月）にてローソンとの共同店舗化を実施いたしました。また16年7月に株式会社ローソン・エイティエム・ネットワークスと提携しローソンATMでのサービス提供を開始しました。ローソン端末『Loppi』による北陸銀行商品申込機能とあわせローソンを通じた北陸銀行のサービス提供チャンネルが拡大することになります。E-netとの提携によるコンビニATM（14年2月サービス提供開始）とあわせ「ほくぎんポイント倶楽部」700ポイント以上のお客さまには、長時間営業かつ時間外手数料無料のキャッシュポイントが合計9,012台（平成17年6月現在）と一層増加することになりました。

## 5. 産学金連携の強化



16年4月の国立大学の独立行政法人化に伴い、北陸銀行では、北陸・北海道地区において4大学3高専の指定金融機関となりました。これを機会に、産学金連携における仲介機能の一層の強化を図るべく、17年3月には、技術移転、人材交流・育成、東アジアにおける国際交流の促進などを主目的として、富山大学との間で包括的連携協力に関する覚書を調印いたしました。また、金沢大学との間では、知的財産本部および金沢大学ティ・エル・オー（KUTLO=キュトロ=技術移転機関）と連携し、16年5月から地域企業への新技術に関するプレゼンテーションを3回実施し、研究・開発分野シーズと地域企業の事業開発ニーズのマッチングを図っております。

## 6.宝くじ付き商品の発売

お客さまに夢と楽しみが広がる商品として、宝くじ付き住宅ローン『「夢」ホーム」ジャンボキャンペーン』（17年4～6月）やジャンボ宝くじ付き定期預金（17年2～5月）を発売いたしました。

## 7.企業再生事業

17年3月に100%子会社である株式会社北銀コーポレートに再生・リストラニーズのある東京エリアのお取引先の債権を会社分割により分離し、企業再生の集中的促進を図ることといたしました。さらに同社とみずほ証券株式会社との間で企業再生分野における業務提携契約を締結し、ノウハウの蓄積と両者の連携による企業再生支援機能の強化を図ることといたしました。

17年4月には、地域特化型の事業再生に実績のある株式会社リサ・パートナーズおよび株式会社ルネッサンスキャピタルグループの2社と事業再生にかかる業務協力協定を締結し、事業再生のさらなる進展と地域経済の活性化のスピードアップを図ってまいります。

## 8.東大通支店開店



石川銀行からの一部営業の譲受後の金沢市における営業拠点整備と顧客利便性の向上を目的に、安江町支店を移転し、金沢市北東部全域をカバーする中核店舗として東大通支店を新設いたしました。同時に橋場支店、東金沢支店を「ほくぎんプラザ」の愛称を持つ出張所として個人・中小企業取引中心の営業拠点といたしました。

# 北海道銀行

## 1.個人向け商品ラインナップの充実



道銀がん保障付き住宅ローン

ローン商品では、16年10月1日より、環境に優しい住宅を取得する方へ住宅ローンを特別金利で提供する「環境配慮型住宅ローン」の取り扱いを開始しました。環境配慮型住宅ローンは、北海道ガスの天然ガス熱源システム「エコウィル」・「Fact」を対象としたのを始め、同年12月には北海道電力の「オール電化住宅」、「ソーラーシステム」を対象に追加し、以後も順次対象を拡大しております。また、17年6月1日には、カーディフ生命保険会社と提携し、「道銀がん保障付き住宅ローン」の取り扱いを開始いたしました。この住宅ローンは、従来の団体信用生命保険にがん保険特約を新たに付帯した商品です。これにより、ご返済が長期にわたる住宅ローンを更に安心してお借り入れいただけるようになりました。



年末ジャンボ宝くじ付き定期預金

預金商品では、16年10月1日から11月30日の間、「年末ジャンボ宝くじ付き定期預金」を発売いたしました。この商品は、販売期間中、5年もの自動継続式定期預金をお預け入れていただいた個人の方を対象に、預入額200万円ごとにもれなく年末ジャンボ宝くじを10枚セットで5年間プレゼントするもので、大変ご好評をいただきました。また、16年11月15日には、お客さまに安全確実な決済サービスをご提供するため、無利息普通預金の取り扱いを開始いたしました。本商品は、「いつでも払い戻しができること」「決済サービスを提供できること」「無利息であること」という決済用預金の条件を満たしており、預金保険制度により全額保護対象となります。

## 2. 企業向け貸出機能の充実

16年11月24日、道内農畜水産業の情報交換、協調融資の推進、相互研鑽、販路支援などを目的とし、農林漁業金融公庫と業務協力に関する覚書を締結しました。農畜水産業および関連産業における情報の共有化や融資活動を通じて、相互の連携を強化し道内産業の育成に寄与してまいります。

また、16年12月10日には、道内初の中小企業・個人事業主向け融資専門店であるビジネスローンプラザにおきまして、新規のお客さまへの融資を開始いたしました。電話・ファックスといったダイレクトチャネルを活用し、早い・簡単・便利をコンセプトにお客さまの資金需要に積極的にお応えしてまいります。

## 3. ビジネスマッチングの推進



北海道の「食」特別商談会

16年10月25日、当行、日経BP社、札幌 IT City推進協議会との共催により、「北海道ビジネスフォーラム2004」を開催いたしました。伊藤元重・東京大学大学院教授による基調講演の後、4テーマからなるビジネスセミナーと北海道ビジネス交流会を開催し、延べ約1,800名が来場されました。第6回となる「北海道ビジネス交流会」には、北陸銀行のお取引先7社を含む70社が出展、約800名が参加されました。会場内では、約200組の面談が実現するなど、活気に満ちた交流会となりました。

17年5月11日、道内の食品・飲料メーカーの販路拡大を支援するため、「北海道の『食』特別商談会」を開催いたしました。商談会には、首都圏からスーパーマーケット経営者・バイヤーを招き、道内メーカー33社と意見交換会や試食を含めた商談会を実施しました。今後もお客さまのニーズにお応えし、より実効性の高いビジネスマッチングの場を提供してまいりたいと考えております。

## 4. 債権流動化・不動産流動化への取り組み

17年2月3日より「顧客債権流動化プログラム」の取り扱いを開始いたしました。本プログラムは、お取引先への新たな資金調達手段の提供と財務の効率化を目的としたもので、自行独自のスキームによる債権流動化業務の取扱いは、道内の金融機関としては初めてとなります。17年3月8日には、北海道開発局向け「完成工事未収入金債権」を対象債権に追加いたしました。

また、17年3月29日より、お取引先の資産オフバランスニーズおよび資金需要にお応えするため、住友信託銀行と共同で道内金融機関初の不動産流動化ファンドを組成することといたしました。

債権・不動産の流動化は銀行借入などによる間接金融や増資などによる直接金融に次ぐ新たな資金調達手段として期待されており、企業の財務効率化のニーズを受けて、ますます拡大することが予想されます。

## 5. 店舗の新築移転



網走支店新店舗

16年10月25日、網走支店が移転開店いたしました。旧店舗は築後42年経過しており、老朽化がすすんでおりました。新店舗は、旧店舗から約150メートル西側の、従来と同様網走中央商店街の中に位置し、駐車場のスペースも広く、ご利用しやすくなっております。また、ATMにつきましても1台増設するとともに、平日の営業時間延長および日曜・祝日営業を開始するなど、よりお客さまのニーズにお応えできる店舗となっております。

17年3月14日には、豊岡支店を旭友ストア ア・モール店の駐車場隣接地に移転開店いたしました。新店舗は、駐車場のスペースが広く、ATMの営業時間を延長し、これまで以上にご利用しやすくなっております。また、旭川支店より住宅ローンプラザが移転し、同店舗に併設となりました。



HOKURIKU

個人のお客さまのために

北陸銀行では、個人のお客さまの幅広いニーズにお応えするために、新しい商品の開発・さまざまなサービスの充実を図っております。

個人預かり資産

投資型金融商品の販売体制の充実に努めた結果、17年3月末の個人向け投資金融商品の合計残高は3,926億円となりました。北陸銀行では、幅広い商品ラインアップで、お客さまのさまざまな資産運用ニーズにお応えするとともに、お客さまの運用資産や投資方針に応じ、商品説明を丁寧に行いながら、的確かつ最適な投資対象をご提案しております。

預金商品については、インターネットバンキング「ほくぎんダイレクトA」<sup>エス</sup>との融合商品である「Webアカウント」や「ジャンボ宝くじ付き定期預金」など、お客さまのニーズに合った魅力的なサービス・商品の取り扱いを開始いたしました。

投資信託については、大変ご好評をいただいている毎月分配型ファンドに加え、地域産業をサポートする「北陸3県応援ファンド」、リスク軽減型ファンド、日本株ファンドそしてJ-REITインデックスファンドなど特色ある投資信託商品を取り揃えて、17年3月末残高1,776億円と大きく増加しております。

個人年金保険商品につきましても、ゆとりあるセカンドライフの資金づくりのための年金受取額が契約時に確定している「定額年金保険」・「年金払積立傷害保険」や運用実績で受け取り年金額が変動する「変額年金保険」、そしてドル建て定額年金や年金原資保証型変額年金など特色ある商品を取り揃えております。

超低金利時代に注目されている外貨預金<sup>エス</sup>につきましても、為替特約付外貨定期預金「ターゲットA」など小口から気軽にご利用できる新商品の開発に努め、皆さまの多様なニーズにお応えできるよう商品内容の充実に努めております。

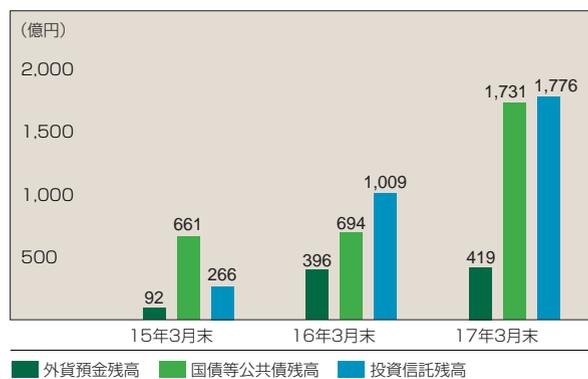
北陸銀行では、お客さまのご要望に的確にお応えできるようファイナンシャルプランナー資格者を営業店に配置するとともに、各地で「資産運用セミナー」を開催しております。



証券仲介業務

野村證券株式会社と業務提携し16年12月から解禁された証券仲介業務に北陸三県で最初に参入しました。同年11月から開始した松井証券との証券取引口座開設サービスと合わせて、個人のお客さまの多様化する資産運用ニーズに最適なサービスを提供してまいります。

個人預かり資産の状況



決済サービスのご利用状況

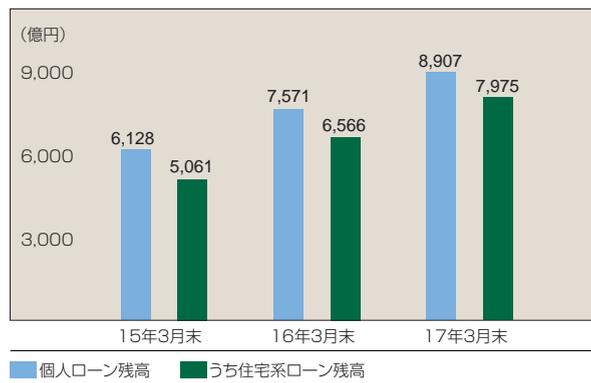


## 個人ローン

個人ローンにつきましては、休日・夜間ローン相談会の開催やほくぎんローンプラザの新設、休日営業拠点の拡大などを図っております。ほくぎんローンプラザは、17年6月末現在で50カ所体制(うち休日営業は24カ所)となっております。ほくぎんローンプラザには、経験豊富な専門スタッフによるきめ細かなアドバイス、スムーズなお申し込みが大変ご好評をいただいております。今後もお客さまとの接点の拡充により、より便利にご利用いただけるよう努力してまいります。さらに、ハウスメーカーの営業担当者との紐帯強化にも努めた結果、住宅ローン案件の取り扱いが順調に増加し、17年3月末の個人ローンの残高は、8,907億円となりました。

また、主力商品のカードローン「スーパーNOW」の積極推進やクレジット機能一体型カード「Core1」の発売や社員融資サービスの推進に努めました。また、ダイレクトチャネルを活用した「クイックマン」などの契約も順調に伸び、カードローン契約数は17年3月末57万件と前年度末比89千件増加しております。

### ■ 個人ローンの状況



※住宅系ローンには、アパートローン、RMBSを含む



## ATMネットワーク

現在、北陸銀行では店舗外ATM232台に加え、コンビニATM運営会社「イーネット」および「ローソン・エティエム・ネットワークス」と提携し、ATMサービスを提供しており、全国9,012台のコンビニATM(17年6月末現在)がご利用になれます。コンビニATMは「早朝から深夜まで」ご利用になれ、ほくぎんポイント倶楽部700ポイント以上のお客さまは時間外手数料が無料となり、大変ご好評をいただいております。



## ほくぎんダイレクトA(エース)

ご自宅のパソコンや携帯電話を利用して、銀行取引が行えるサービスです。サービス内容は振込・振替・残高照会などで、パソコンからは定期預金の作成、公共料金口座振替そして住所変更もご利用できます。原則として24時間365日ご利用が可能で、約7万2千先のお客さまにご利用いただいております。また、17年3月よりアカウントアグリゲーションサービス(口座管理サービス)に対応いたしましたので、お客さまがお持ちの銀行口座情報に加え、クレジットカードの請求確認等、他の金融機関の口座情報を1つの画面で一覧管理することができるようになりました。



## 最適な総合金融サービスの提供

15年7月に金融サービスタスクフォースを設置し、シンジケートローン、M&A、私募債、国際業務からプライベートバンキングまで幅広い分野にわたり、北陸銀行の高い専門能力を有する人材を集め、お客さまが抱える経営課題の解決に向けて質の高い金融サービスやコンサルティングを提供してまいりました。17年6月に新設した営業推進本部のなかに、シンジケートローン、M&A、債権流動化そしてプライベートバンキング等の高度な金融サービスを提供する金融サービス室を設置し、金融サービスタスクフォースを発展的に解消し、その業務を引き継ぎいたします。新設の金融サービス室では、お客さまのニーズにスピーディーにかつ適切にお応えできる人材を揃えとともに、地区事業部と連携し、従来以上に質の高い総合金融サービスの提供に努めてまいります。

### ■ 北陸銀行が提供する総合金融サービス

#### リレーションシップマネジメント

金融・財務ニーズや経営課題に対し、企業金融に高い専門性を持つRM（リレーションシップマネジメント）スタッフがベストソリューションを提供いたします。

#### プライベートバンキング

事業継承、資金運用等のニーズに対し、高度な専門知識を有するPB（プライベートバンキング）スタッフが的確なアドバイスを提供いたします。

#### IT戦略コンストラクション

お客さまの業務省力化ニーズを満たす、最適な社内IT（インフォメーションテクノロジー）戦略について、アドバイスを提供いたします。

#### トレーディング&デリバティブ

海外進出や直接貿易を指向するお客さまに対し、情報提供など各種サポートを行います。また、デリバティブ商品を活用したリスクヘッジプランを提供いたします。

#### 16年度実績

シンジケートローン組成 51件 1,263億円  
 確定拠出年金導入先 14社（導入累計 35社）  
 債権流動化導入先 7社  
 M&A実施先 6社  
 私募債発行先138社 26,330百万円  
 プライベートバンキング提案書作成先 143先  
 デリバティブ取扱件数 710社  
 ファームバンキング導入先 751社  
 資金効率化サービス導入先 67社

## ほくぎんビジパ倶楽部

17年1月、株式会社コンサルティングファームと提携し、インターネットによる法人経営者向けの会員制経営相談・情報サービス「ほくぎんビジパ倶楽部」の取り扱いを開始いたしました。企業経営や経営企画・事業開発・総務人事業務など、日常的に様々な問題やリスクを抱えるお取引先の皆さまにインターネットを利用し、手軽に国家資格者・専門家（弁護士・税理士・社会保険労務士など）への経営相談を可能にしたサービスで、迅速かつ的確なアドバイスが大変ご好評をいただき、すでに会員数2,788先と多くの会社経営者の皆さまにメンバーになっていただいております。

## 中国ビジネスへの支援強化

地元企業の進出が盛んになっている中国には、10年以上の活動歴のある上海駐在員事務所が富山県大連事務所（北陸銀行から副所長を派遣）や札幌市北京事務所（北海道銀行が行員を派遣）と連携し、現地情報の収集・還元などお取引企業のニーズにお応えしております。

### 【大連市との経済交流協定の締結】

ビジネスチャンスが拡大している中国でのお取引企業のサポートやビジネスマッチングを支援する「ほくろく長城会」に加え、16年10月10日には北陸銀行と中国遼寧省大連市人民政府との間で経済交流協定を締結し、今後の地元企業と大連市の経済面での交流をより積極的に支援してまいります。

### 【中国ビジネスデスクの設置】

北陸銀行は、中国（香港を含む）勤務経験者等の約100名を中心に、16年10月に中国ビジネスに関する相談に応じる「中国ビジネスデスク」を32店舗に設置し、営業の第一線でよりの確で、より迅速な中国ビジネス支援体制を充実させました。



中国（香港を含む）勤務経験者等の約100名を中心に、16年10月に中国ビジネスに関する相談に応じる「中国ビジネスデスク」を32店舗に設置し、営業の第一線でよりの確で、より迅速な中国ビジネス支援体制を充実させました。

## 中小企業のお客さまのために

中小企業のお客さまの資金ニーズにお応えするために、信用保証協会や外部保証会社とタイアップして、申し込み・審査手続きがスピーディーで、保証人や担保が不要な商品を充実させてまいりました。地元企業の事業資金ニーズに幅広く対応し、円滑な資金供給を行うとともに、情報提供やアドバイス機能を強化し、真のビジネスパートナーとしての存在価値を従来以上に高めてまいります。

### ほくぎんビジネスセンター富山を新設

中小企業のお客さまに、より身近にお取引いただけるよう、法人・個人事業主向けリモート営業拠点「ほくぎんビジネスセンター富山」を新設いたしました。「ほくぎんビジネスセンター」では、従来以上に融資・渉外サービスの向上を目指し、経験豊かな専属スタッフが、DMによる

経営情報の発信や電話による融資相談等を中心に、中小企業のお客さまに最適な金融サービスを提供してまいります。また、平日お忙しい中小企業のお客さまにも気軽にお立ち寄りいただけるよう土曜日も営業し、事業資金ニーズ等にきめ細かくお応えしてまいります。

#### ■ 主な中小企業向け融資商品

商品名		融資金額	融資期間	商品の特徴
ほくぎん リレーションシップ ファンド 「ACT」シリーズ	「Assist」	3,000万円～1億円	1年以内	TIBORベース金利適用
	「Create」	5,000万円～2億円	5年以内	財務制限条項付きの 無担保・無保証の融資商品
	「Tomorrow」	1,000万円～5,000万円		財務制限条項付きの 無担保・第三者保証不要の融資商品
ほくぎんTKC経営者ローン (一部取り扱いしていない地区もございます)		100万円～3,000万円 (17年4月から金額アップ)	6ヵ月以上5年以内	TKC北陸会と提携し、 スコアリングによるスピード審査
ほくぎん税理士会経営者ローン (一部取り扱いしていない地区もございます)				北陸税理士会と提携し、 スコアリングによるスピード審査
クイックエース	300	50万円～300万円	1年または2年	(株)クレディアと提携し、スピード審査で 無担保・第三者保証不要の融資商品
	500	50万円～500万円	6ヵ月以上5年以内	アイフル(株)と提携し、スピード審査で 無担保・第三者保証不要の融資商品
	3000	100万円～3,000万円	6ヵ月以上5年以内	金利優遇もある、スピード審査で 無担保・第三者保証不要の融資商品

### ビジネスマッチング取組強化

#### 【ほくほくFGビジネスフォーラム2004】

北海道からの参加14社を含む81社の企業からの出展をいただき、16年9月にビジネス交流会「ほくほくFGビジネスフォーラム2004」を富山で開催いたしました。当日は県内外から約1,200名の企業関係者の方が来場され、活発な商談が行われました。16年10月に札幌で開催された北海道銀行主催の「北海道ビジネスフォーラム2004」にも、昨年に引き続き北陸銀行のお取引先7社が参加されました。今後も、ほくほくFGグループとして地域のお取引先企業



に対するビジネスマッチングサービスの提供に努めてまいります。

#### 【ほくほくFGビジネスマッチングタスクフォース】

北陸銀行と北海道銀行のお取引先のビジネスマッチングを推進する合同の専門チーム「ほくほくFGビジネスマッチングタスクフォース」を16年10月に両行24名(北陸銀行16名、北海道銀行8名)で設置いたしました。テレビ会議システムを活用し、北陸・北海道と三大都市圏間のビジネス情報の提供を通じたお取引先企業の発展に貢献してまいります。

## 地域経済活性化のために

### 創業・新事業創出への支援

北陸銀行では、地域の商工会議所等と連携し、各地区で移動経営相談会を開催し、創業や新事業進出をお考えの事業者の皆さまに対し、経営相談や有利な資金調達のアドバイスなどさまざまなサポートを行っております。

また、北陸キャピタル、北銀リースや北陸経済研究所と連携し、地域の次世代産業の担い手となる産業・企業の育成に積極的に取り組んでおります。北陸キャピタルでは、地方公共団体や大学研究機関と連携し、株式公開・上場支援業務、社債の引受業務を通じて、地域ベンチャー企業の発掘・育成や新規事業を支援し、北陸三県有数の地域シンクタンクである北陸経済研究所およびグループ企業である北銀リースと

### 経営改善支援への取り組み

15年4月、60人の人員で中小企業の皆さまの経営改善を支援する「企業支援タスクフォース」を設置いたしました。現在は、支店の再生担当者も加え、126名体制（17年4月1日現在）とし、地域の中小企業の経営をサポートしております。15年4月から17年3月の集中改善期間内に、経営支援対象先334先中69先をランクアップしております。

また、リレーションシップバンキング機能強化に向けて、16年12月に企業再生会社「北銀コーポレート」を設立いたしました。当社は東京エリアのお取引先の債権を北陸銀行から分離し、業務提携したみずほ証券株式会社の企業再生ノウハウも活用しながら、あらゆる角度から企業再生支援等に取り組むことを目指しております。

17年4月には、地域特化型の事業再生ファンドである株式会社リサ・パートナーズおよび株式会社ルネッサンスキャピタルグループの2社と事業再生に関する業務協力協定を締結し、両社のノウハウを活用し、地域企業の経営改善を図り、地域経済活性化に貢献してまいります。

#### ■ 経営改善支援の取り組み実績

(15年4月～17年3月)

(単位:先数)

	期初債務者数	うち経営改善支援 取り組み先	うち期末に 債務者区分が 上昇した先数	うち期末に 債務者区分が 変化した先数
正常先	27,891	56		29
要 注 意 先				
うちその他要注意先	3,200	198	51	82
うち要管理先	148	33	7	14
破綻懸念先	359	43	10	24
実質破綻先	490	1	0	1
破綻先	500	3	1	2
合計	32,588	334	69	152



### 地方公共団体とのお取引

北陸銀行は、32の地方公共団体(事務組合を含む)から指定金融機関の指定を受け、指定金融機関業務を行っております。また、19の地方公共団体へ36名を派遣しております。16年度は1,007億円の地方債を引き受け、17年3月末の引受残高(市場売却分を除く)は、3,695億円となっております。

地方公共団体との協定融資につきましては、中小企業の皆さまに有利な調達手段として積極的に取り組んでおります。17年3月末では、24,049件、2,031億円の残高となり、16年度の新規取り扱いは、7,812件、906億円と多くの地元中小企業の皆さまにご利用いただいております。

北陸銀行は、明治10年の創業以来「地域とともに生きる運命共同体」として、  
 広く社会のお役に立てるよう、地域のボランティア活動・行事等に積極的に取り組み、  
 これからも「企業市民」として地道に社会貢献活動を継続してまいります。

## 財団法人 北陸銀行奨学助成財団

北陸銀行創立20周年記念事業として昭和38年に設立され、40年以上にわたり北陸三県および北海道における学校教育のより一層の発展と向上を図るため、教育用備品の寄贈や教育用設備品等の充実に要する資金の補助などの事業を行ってまいりました。平成16年までの寄贈校数は延べ1,756校、寄贈額累計は4億円を超えており、高い評価をいただいております。

また、平成5年には設立30周年を記念し、富山県立近代美術館の常設展示作品を紹介する美術館ガイドブック「20世紀の美術を見よう」を発刊し、毎年富山県内の全中学校の1年生全員に無償配布し、美術教育の振興に役立てていただいております。



寄贈式

## 地域行事に積極的に参加

富山まつり「おわら踊り街流し」は、例年8月に開催される富山まつりの中心的イベントとなっており、富山市の富山城址大通りで多くの踊り手が越中八尾のおわら節にあわせて、にぎやかに街流しを行うものです。北陸銀行グループは、平成4年から参加し、今年で14回目となります。このような地域行事には、それぞれの地域で積極的に参加しております。



おわら踊り街流し

## 財団法人 北陸経済研究所

北陸銀行創業100周年記念事業として昭和53年3月に設立された(財)北陸経済研究所は、北陸三県の産業振興と地域社会の発展に資するための調査・研究や適切な情報の提供と助言を行っております。

## 職場体験学習の受け入れ

富山県では、中学2年生が授業を離れ、さまざまな職場で仕事を体験する「14歳の挑戦」活動を教育の一環として取り入れております。北陸銀行ではその趣旨に賛同し、生徒を受け入れております。また、高校生や大学生のインターンシップにも就業経験の機会をできるだけ多く持っていただけるよう、積極的に取り組んでおります。

## 新入社員セミナーの開催や講師派遣

例年4月初旬に新入社員公開セミナーを開催し、社会人としての心構えだけでなく、言葉遣いや電話対応・挨拶の仕方など、実践的なセミナーを開催し、ご好評をいただいております。また、17年4月から半年間、富山大学経済学部でMBA、CFPなどの有資格者や海外留学・勤務経験のある役職員が講師となって「金融の最前線の最新ノウハウ」を解説する寄付講座を実施しております。



富山大学寄付講座

## 地域に開かれた企業として

平成6年から北陸銀行本店のショーウィンドウを中央通り商店街活性化のため、そして美術作品発表の場「ほくぎんアートプロムナード」として、富山県内在住の作家の方々に提供し、多くの方々に「街の中のミニ美術館」として親しんでいただいております。16年1月からは、社団法人富山県芸術文化協会の企画展を開催しております。



ほくぎんアートプロムナード



個人のお客さまのために

北海道銀行では、お客さまのライフスタイルの変化に伴う一層多様化したニーズに的確にお応えするため、新しい商品の開発ならびに既存商品のレベルアップに絶えず取り組んでおります。

個人預かり資産

昨今の低金利、ペイオフ全面解禁もあり、お客さまの関心が「貯蓄」から「投資」へ向かいつつあります。そのような中、北海道銀行ではお客さまの資産の運用をお手伝いするために、預金商品を含めた様々な金融商品を取り揃えております。

特に「投資信託商品」につきましては、道内行ではもっとも多い約40種類のラインアップをご用意しており、その時々のお客さまのニーズにあった新商品の取り扱いも随時行っております。大変ご好評をいただいている毎月分配型ファンドに加え、リスク軽減型ファンド、日本株ファンド、外国債券ファンドなどさまざまなタイプの商品を取り揃えております。

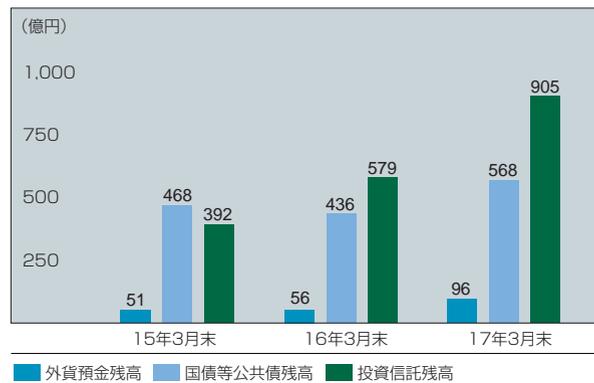
個人年金保険商品につきましても、8社9商品のラインアップをご用意しており、年金受取額が契約時点で確定している「円建て定額年金保険」、外貨建てで確定している「外貨建て定額年金保険」、運用実績により受取額が変動し、運用成果次第では高い収益も期待できる「変額年金保険」の3タイプを取り揃えております。

また、外貨預金につきましては、通常の外貨預金に加え、一定の範囲内で為替リスクを軽減しながら、円ベースで有利な利回りを目指す為替特約付外貨定期預金「玉手箱」など新しいタイプの商品もご用意しております。

北海道銀行では、お客さまのさまざまなニーズにお応えするとともに、お客さまのライフスタイルに応じ、的確かつ最適なご提案を全店で行ってまいります。



個人預かり資産の状況



証券仲介業務

17年4月より、野村證券株式会社と提携して証券仲介業務を開始し、道内14カ店にて証券口座の開設やタンス株券の保護預かり、外債の販売を行っております。

今後、取扱店舗の拡大とともに商品内容の充実をすすめてまいります。

住宅ローン

住宅ローンにつきましては、完済まで一定の金利を優遇する「道銀住宅ローンキャンペーン」、全期間固定金利が魅力の「道銀住宅ローンスペシャル」などの取り扱いにより残高が着実に増加しており、17年3月末の住宅ローン残高は7,621億円(前年対比325億円増加)となりました。

また、「道銀住宅ローンプラザ」を道内主要都市12カ所に開設しており、ローン専門のスタッフによるきめ細かなご相談やお申込みを受付する体制を整えています。札幌市内のプラザにつきましては、土曜日の営業も行ってまいりますので、平日ご来店できない方も安心してご利用いただけます。

さらに、17年6月1日より取り扱いを開始した「道銀がん保障付き住宅ローン」や、環境に優しい住宅の取得を応援する「道銀環境配慮型住宅ローン」なども大変ご好評をいただいております。



道内住宅ローンの新規取扱状況



## ラピッドカードローン

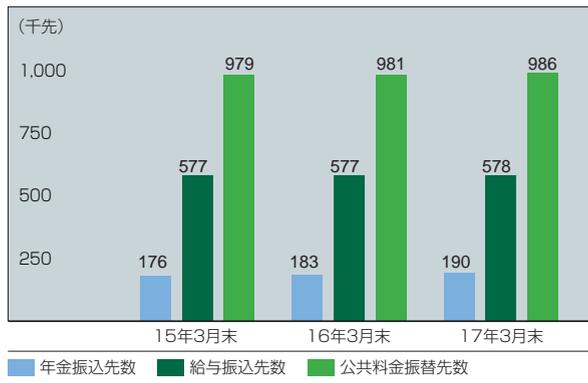
道銀の簡単キャッシング『ラピッド』は、電話・FAX・インターネット・郵送で24時間365日お申込みいただけるご来店不要のカードローンで、最短でお申込み当日のご融資が可能です。

## ATMネットワーク

北海道銀行では店舗外ATM340台に加え、コンビニATM運営会社「イーネット」および「ローソン・エイティエム・ネットワークス」との提携により、セイコーマート、ファミリーマートおよびローソン等に設置されている全国9,012台（うち道内265台）のコンビニATMがご利用いただけます。（各ATM台数は17年6月末時点）

## 決済サービスのご利用状況

年金振込は19万先、給与振込は57万先、公共料金の自動振替は98万先、と多くのお客さまに家計のメイン口座としてご利用いただいております。



## 年金講演会

道内各地で、社会保険労務士が年金の仕組み、諸手続き等について、ご説明をする年金講演会を開催しています。

	開催回数	出席人数	主な開催地
平成14年度	59回	1,837人	札幌、小樽、旭川
平成15年度	64回	2,514人	帯広、釧路、苫小牧
平成16年度	71回	2,911人	室蘭、北見、函館

## テレホンバンキング・インターネットバンキング・モバイルバンキング

いつでも、どこでも道銀とお取引ができるサービスです。

- 電話を使って ~テレホンバンキング
- パソコンを使って ~インターネットバンキング
- 携帯電話を使って ~モバイルバンキング

1 テレホンバンキングはキャッシュカードをお持ちの方であれば、どなたでもご利用できるサービス（残高照会・住所変更等）と、会員の方（17年3月末現在約3万6千先）がご利用できるサービス（振込・定期預金入金解約等）があります。

2 インターネットバンキング・モバイルバンキングは、原則として24時間365日ご利用が可能で、約2万5千先のお客さまにご利用いただいております。

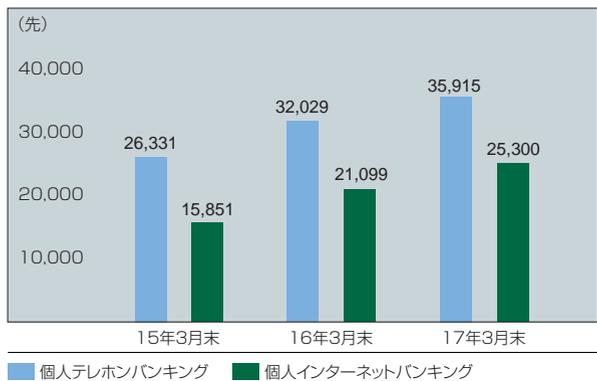
3 インターネットバンキングは、振込・振替、定期預金の入金・解約、公共料金口座振替・住所変更の申込みの他、税金・各種料金払込サービス（ペイジー）がご利用いただけます。

モバイルバンキングでは、振込・振替の他、税金・各種料金払込サービス（ペイジー）がご利用いただけます。また、17年5月からは振込の際に相手口座名が自動表示される機能が付くなど、ますます便利になっていきます。



インターネットバンキング画面

## 道内のダイレクトバンキング会員数の推移



## 中小企業のお客さまのために

北海道銀行では、従来の預金・融資業務に加え、中小企業の皆さまのビジネスのお役に立てるよう各種サービスの充実を図っております。

### ビジネスマッチング業務

16年7月より、ビジネスマッチング業務「マッチ・グー!」の取り扱いを開始いたしました。お取引先における経営課題・経営施策に関して、北海道銀行の持つ情報ネットワークを活用し適切なパートナーをご紹介します仕組みです。

また、お取引先のビジネスチャンス拡大を支援するため、平成11年より北海道ビジネスフォーラムを開催しています。16年10月25日の「北海道ビジネスフォーラム2004」では、伊藤元重・東京大学大学院教授による基調講演の後、4テーマによるビジネスセミナーと北海道ビジネス交流会を開催し、延べ約1,800名が参加されました。第6回となる「北海道ビジネス交流会」には、北陸銀行のお取引先7社を含む70社が出展、約800名が来場され、会場内で約200組の面談が実現するなど、活気に満ちた交流会となりました。今後もほくほくフィナンシャルグループのネットワークを活用し、広域かつ実効性の高いビジネスマッチングを実現してまいります。



ビジネスフォーラム



交流会

### 海外ビジネス支援体制の強化

海外業務サポートセンター内に中国・ロシアデスクを設置し、中国、ロシアとのビジネス、経済交流の支援を行っております。

#### 【ほっかいどう長城会】

16年5月、中国ビジネスに関する情報交換、企業交流の場として、「ほっかいどう長城会」を設立いたしました。17年3月末現在、会員数は168先となっております。今後は、北陸銀行の「ほくりく長城会」との連携をさらに深めながら、取引先企業の中国進出支援に積極的に取り組んでまいります。



長城会

#### 【サハリン州との交流支援】

ロシア・サハリン州につきましては、北海道が国内で一番近く、地元企業の皆さまの注目が高まっています。北海道銀行は現地の情報収集、地元企業への情報提供、支援を目的として、サハリンウエスト銀行と業務提携をし、17年2月には、サハリン関連ビジネスに投資する「道銀サハリンビジネス・サポートファンド」を設立いたしました。今後もこれらの取り組みを強化してまいります。



サハリンウエスト銀行本店前

### ビジネスローンプラザ

中小企業・個人事業主向け融資専門店「ビジネスローンプラザ」は、15年12月のオープン以来「早い」「簡単」「便利」をコンセプトに、無担保・第三者保証不要を基本として、お客さまの資金ニーズにお応えしてまいりました。

16年12月に導入いたしました「自動審査システム」により審査期間が大幅に短縮。既往のお客さまは最短で即日、新規のお客さまでも最短で翌日に審査の回答が可能となり、一層スピーディーな対応が可能となりました。17年4月より、この「自動審査システム」を活用しましたご新規の中小企業・個人事業主のお客さま向け融資商品「マインドゥ プラス」の取り扱いを開始し好評を得ております。

北海道銀行では、これからも道内中小企業の皆さまの資金ニーズに積極的に対応してまいります。



マインドゥバンフレット

## 最適な総合金融サービスの提供

### 道銀地域企業経営研究所による各種経営サポート

北海道銀行では、地域企業が抱える経営上の問題や課題を解決する専門的な支援部署として、法人営業グループ内に「道銀地域企業経営研究所」を設置し、実践的に問題解決をお手伝いします。

#### ● セミナー

キャリアに応じたプログラムで構成される「階層別研修」と、日々の実務に直結した話題を提供する「マネジメントスクール」を開催しています。



セミナー

#### ● コンサルティングサービス

長年にわたって蓄積した独自のノウハウをもとに、各企業の個性と現状に即した最も効果的な解決策をご提案します。

#### ● 経済調査室

道内および国内外の経済・産業動向に関して独自に調査・分析を行い、ビジネスの一助となる質の高い情報提供に努めています。月刊誌「調査ニュース」の刊行、「北海道経済の見通し」の発表（年2回）のほか、講演活動などを行っています。



道銀地域企業経営研究所の各種刊行物

### ■ 主な刊行物

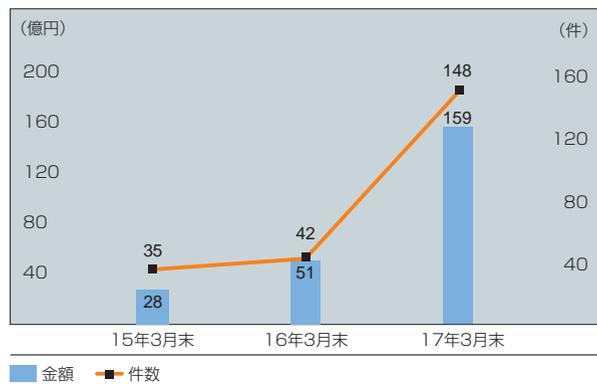
刊行物名	発行	内容
調査ニュース	月刊	道内および国内外の産業、経済・金融の動向に関するその時々話題や調査結果などをコンパクトに編集。
あなたの年金早わかりQ&A	年1回	国民年金、厚生年金、共済年金について、どうすれば、いつから、どれだけ受給できるかをわかりやすく解説。
新しい税金の知識	年1回	税制改正に伴い、どのような点が変わったのか、さまざまな税金についてわかりやすく解説。
確定申告のしかた	年1回	確定申告のポイントと申告書の書き方をわかりやすく解説。

### 時代のニーズに対応した金融サービスの提供

北海道銀行では、シンジケートローン・私募債・デリバティブ・債権流動化・ファクタリング等、時代にマッチした最新金融商品の開発・提供を心がけております。

16年9月にはデリバティブ内包型円定期預金（「道銀EX定期預金」）の取り扱い開始、さらに17年2月にはSPC方式による債権流動化プログラムの取り扱いを開始する等、積極的に新種業務に取り組んでおります。このような専門性の高い金融サービスの提供により、地域金融機関としてお客さまが抱える経営課題の解決にお役に立ちたいと考えております。

### ■ 私募債発行実績



## 地域経済活性化のために

北海道銀行では、北海道経済を支える地元企業の支援を通じ、地域経済の活性化を図るため、事業再生、企業育成に力を入れております。

### 企業育成

16年5月に投資事業有限責任組合法に基づいた「道銀どさんこ1号ファンド」を設立いたしました。主に道内における起業、新規事業等に取り組むベンチャーや中小企業等への投資を通じ、地域経済の発展と産業振興に寄与することを目的としております。従来の金融機能の提供と本ファンドからの円滑な資金供給により、新技術・新製品開発力に富む企業の育成や新産業の創造に積極的に取り組み、将来の北海道経済を担うベンチャーや中小企業の成長のサポートに努めております。17年6月末現在、道内における起業、新規事業等に取り組むベンチャーや中小企業など15先に対し、5億円を投資しました。

### 道銀中小企業人材育成基金

道内産業の技術力強化による自立性ある経営基盤確立のため、第二次産業を中心とした経営者およびその従業員・研究者等の技術水準向上、新技術分野開発能力等の養成を図る事業を行っております。



当基金主催ISOセミナー



### 当基金によるISO認証取得支援の実績

(単位:先数)

	品質 マネジメント システム	環境 マネジメント システム	労働安全衛生 マネジメント システム
平成13年度以前	141	1	1
平成14年度	24	1	0
平成15年度	25	7	0
平成16年度	24	13	1

### 経営改善支援への取り組み

専門部署として「企業支援グループ」を設置し、お取引先企業の経営改善支援を実施しています。平成16年度は対象先として選定した496社のうち、131社の債務者区分が改善(ランクアップ)いたしました。同グループが発足した15年4月以降では、179社のランクアップを実現しております。

### 経営改善支援の取組み実績

平成15年度(15年4月~16年3月)

(単位:先数)

	期初債務者数	うち経営改善支援 取組み先	うち期末に 債務者区分が 上昇した先数	うち期末に 債務者区分が 変化しなかった先	
正常先	7,310	0	0	0	
要 注 意 先	うちその他要注意先	3,729	327	45	256
	うち要管理先	206	87	2	64
破綻懸念先	1,018	8	1	5	
実質破綻先	220	1	0	1	
破綻先	295	1	0	1	
合計	12,778	424	48	327	

平成16年度(16年4月~17年3月)

(単位:先数)

	期初債務者数	うち経営改善支援 取組み先	うち期末に 債務者区分が 上昇した先数	うち期末に 債務者区分が 変化しなかった先	
正常先	6,801	0	0	0	
要 注 意 先	うちその他要注意先	3,517	355	87	240
	うち要管理先	156	75	36	30
破綻懸念先	982	64	8	31	
実質破綻先	197	1	0	0	
破綻先	325	1	0	1	
合計	11,978	496	131	302	

北海道銀行は、北海道に根ざす一企業市民として、芸術文化、スポーツ振興支援などの地域貢献活動に取り組んでおります。

## 財団法人 道銀文化財団

北海道銀行では、北海道内の芸術、文化活動の普及・振興に貢献することを目的に、財団法人道銀文化財団を設立し、「道銀ライラックコンサート」「美術鑑賞会」「道銀芸術文化奨励賞」など、様々な活動に取り組んでおります。

### 【道銀芸術文化奨励賞】

道内で活躍する優れた芸術家を顕彰する「道銀芸術文化奨励賞」を制定しております。平成16年度は、17年3月11日に「第14回道銀芸術文化奨励賞贈呈式」を執り行い、芸術部門ではソプラノの菅原利美さん、舞台芸術部門では、YOSAKOIソーラン祭りで大賞受賞歴のある「平岸天神」の振付家としても活躍されている高橋学さんを表彰いたしました。表彰式の後には、発表会も行われ、菅原さんはアリア2曲を、高橋学さんはチームダンスを、それぞれ披露されました。



### 【「道銀ライラックコンサート」の開催】

道内の皆さまに、広く芸術に親しんでいただくことを目的に、「道銀ライラックコンサート」を開催しております。



平成17年5月12日に開催したコンサート(第19回)では、札幌コンサートホールKitaraに、1,700名をご招待し、札幌交響楽団の演奏によるクラシックの名曲をお楽しみいただきました。



### 【美術鑑賞会】

16年9月22日、北海道立帯広美術館において、道銀文化財団主催による「第29回美術鑑賞会in Obihiro」を開催いたしました。同美術館の企画展「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち展」に70名をご招待し、学芸員による特別レクチャーの後、20世紀の絵画に新境地を開いたフォーヴィスム(野獣派)とキュビズム(立体派)の二大運動の作品をお楽しみいただきました。

### 【らいらっく・ぎゃらりい】

当財団が運営する北海道銀行本店ビル1階にあるギャラリーを開放し、若手芸術家や各種サークル活動の成果発表の場等としてご利用いただいております。

## さっぽろライラックまつりへの協賛

北海道銀行では「札幌をライラックの花につつまれた美しい街に」との願いを込めて、昭和34年より毎年「さっぽろライラックまつり」に協賛しております。また、昭和50年からはライラックの苗木をプレゼントさせていただいており、皆さまのご家庭の庭木として親しまれています。これまでお配りした苗木は84,000本になりました。



## 北海道カナダ協会

当協会では北海道と自然環境など共通点の多い北方圏との交流を通じて、生活の知恵を積極的に取り入れ、地域の発展や暮らしに役立てたいとの考えから、カナダとの友好親善交流活動に継続して取り組んでおります。北海道銀行は、人材派遣を通じて、事務局の運営に協力しています。

### <最近時のおもな活動>

- 「カナダ留学セミナー」の開催
- カナダ・スクール(講演会)の開催
- 一日大学(カナダセミナー)の開催
- 会報誌「めいぷる」の発行

一層の経営体質の強化を図ってまいります。

## ペイオフとは

「ペイオフ」とは万一金融機関が破綻した場合に、その金融機関に代わって、預金保険機構が預金者に「預金者1人当たり元本1,000万円とその利息等」を「保険金」として直接支払うことです。

なお、1,000万円を超える元本とその利息等については、その金融機関の財産状況に応じて預金者に支払われ、全てカットされるわけではありません。

## 北陸銀行、北海道銀行にそれぞれ預金がある場合

北陸銀行と北海道銀行は銀行ごとに別々に預金額を計算するため、一行につき預金者1人当たり元本1,000万円とその利息等が保護されます。

## 当社グループの取り組み

経営の安定性を示す自己資本比率（連結）は平成17年3月末で8.33%となっており、子会社の北陸銀行は8.42%（単体）、北海道銀行は7.28%（単体）であり、国内業務を営む金融機関に求められている基準（4%）を十分余裕を持ってクリアしております。

今後も引き続き、皆さまから信頼され、安心してお取引いただけますよう、「経営の健全化のための計画」の着実な実行により経営体質のさらなる強化を図ってまいります。

また、経営内容について、ディスクロージャー誌の充実を図るとともに、広報活動やホームページを通して積極的に情報開示を進めてまいります。

## 預金保険制度で保護される預金等の範囲

	平成17年4月以降
普通預金、別段預金のうち利息のつかない決済用預金(注1)および当座預金	全額保護
上記以外の普通預金、別段預金	合算して元本1,000万円とその利息(注3)を保護 1,000万円を超える部分は破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われます。(一部カットされることがあります。)
定期性預金、定期積金、貯蓄預金、通知預金、納税準備預金、ビッグ、ワイド等(注2)	
外貨預金、譲渡性預金、ヒット等	保護対象外 破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われます。(一部カットされることがあります。)

(注1) 決済用預金とは、「無利息、要求払い、決済サービスを提供できること」という3条件を満たす預金です。

(注2) このほか、掛金、預金保険の対象預金を用いた積立・財形貯蓄商品が該当します。

(注3) 定期積金の給付補填金、金銭信託における収益の分配のうち一定の要件を満たすもの等も利息と同様保護されます。